

2023年度第3四半期決算の概要

(2023年4月1日～2023年12月31日)

2024年2月2日

山陽特殊製鋼株式会社
<https://www.sanyo-steel.co.jp/>



目次

1. 2023FY3Q決算の概況

損益の概要

事業環境

業績推移(四半期)、セグメント別損益、貸借対照表(連結)

経常利益の変化要因(2022FY4-12月期→2023FY4-12月期、2023FY2Q→2023FY3Q)

2. 業績予想等

2023FY業績予想

2023FY配当予想

売上数量推移(単独)

経常利益の変化要因(2023FY下期前回予想→2023FY下期今回予想、2023FY3Q→2023FY4Q予想、
2022FY→2023FY今回予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

3. トピックス

4. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

5. 参考資料

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2023FY3Q決算の概況

2023FY4-12月期損益の概要 (対2022FY4-12月期)

連結経常利益91億円(前年同期比-116億円)

売上数量の減少・販売構成の悪化、Ovakoの一過性影響の縮小により、減収減益

エネルギーサーチャージ等の適用に伴い販売価格は上昇も、売上数量の減少や販売構成の悪化、原燃料価格の上昇や諸資材等へのインフレ影響に加え、Ovakoの売上数量の減少や一過性影響の縮小などにより、前年同期比減収減益。

(単位：億円、%)

	2023FY4-12月期 (A)		2022FY4-12月期 (B)		増減 (A) - (B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	2,690	100.0	2,944	100.0	-254	-8.6
営業利益	88	3.3	204	6.9	-116	-56.8
経常利益	91	ROS 3.4	207	ROS 7.0	-116	-56.1
内、当社単独	76	5.5	95	6.5	-19	-19.6
内、Ovako	61	5.7	139	11.0	-78	-56.1
内、SSMI	5	2.7	▲4	-	+8	-
内、のれん償却費	▲24	-	▲22	-	-2	-
税後利益 (注1)	63	2.3	148	5.0	-84	-57.2
のれん償却費を除く税後利益	87	3.2	169	5.8	-82	-48.5
売上数量 (千t)	1,092	121.3 /月	1,210	134.5 /月	-119	-13.2 /月
内、当社単独	629	69.9 /月	681	75.7 /月	-52	-5.8 /月
内、Ovako	376	41.8 /月	451	50.1 /月	-75	-8.3 /月
内、SSMI	86	9.6 /月	78	8.7 /月	+8	+0.9 /月

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～9月の数値

事業環境

需要動向

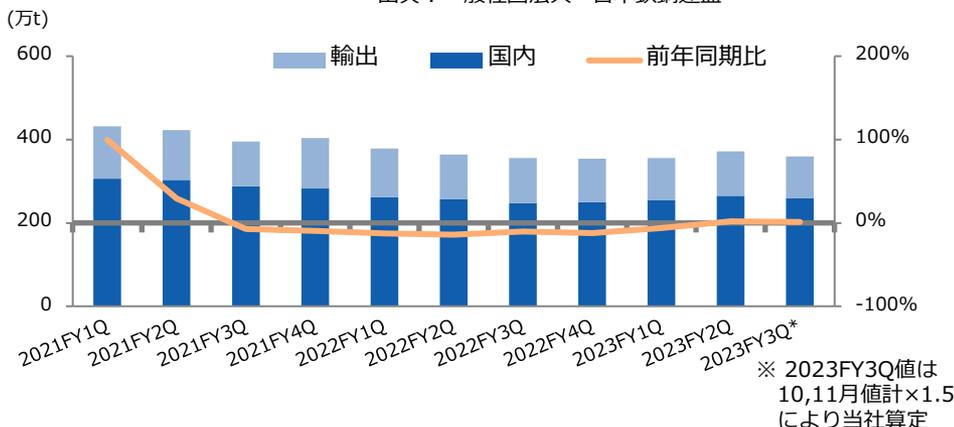
自動車生産は緩やかに回復も跛行性あり。建設・産業機械向けは需要減少し在庫調整も拡大。中国経済の減速、欧州経済の低迷継続も、今後、在庫調整終了による実需水準への回復を期待。

原燃料価格

鉄スクラップをはじめ、原材料価格は高位で推移も、一部の合金鉄は需要減により低下傾向。エネルギー価格は下げ止まり。諸資材等のインフレも進展。

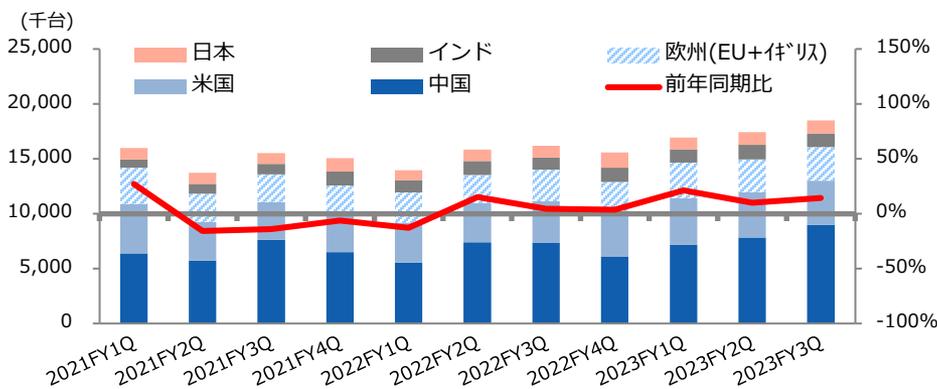
1. 特殊鋼受注数量

出典：一般社団法人 日本鉄鋼連盟

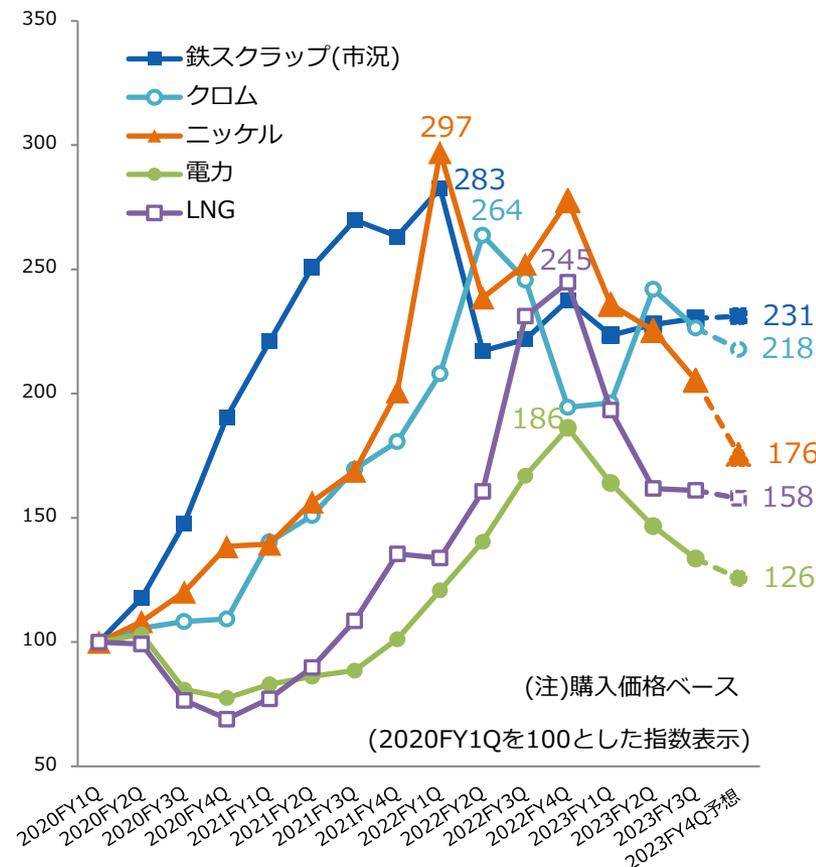


2. 主要国自動車販売台数

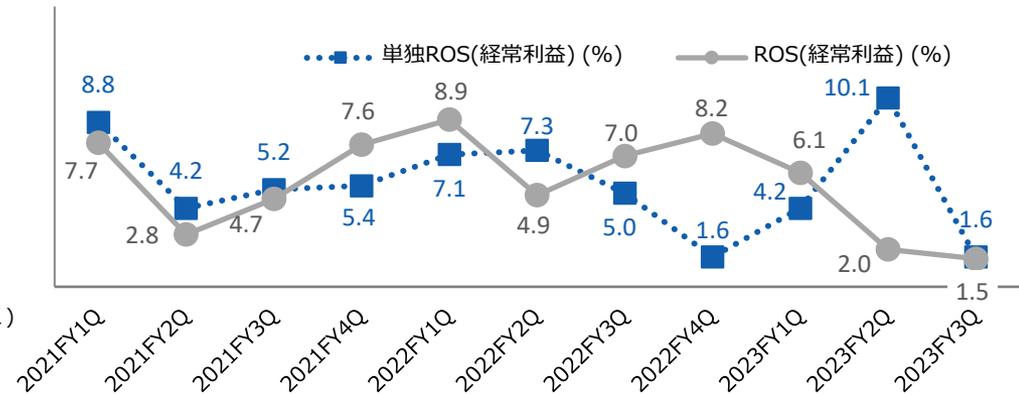
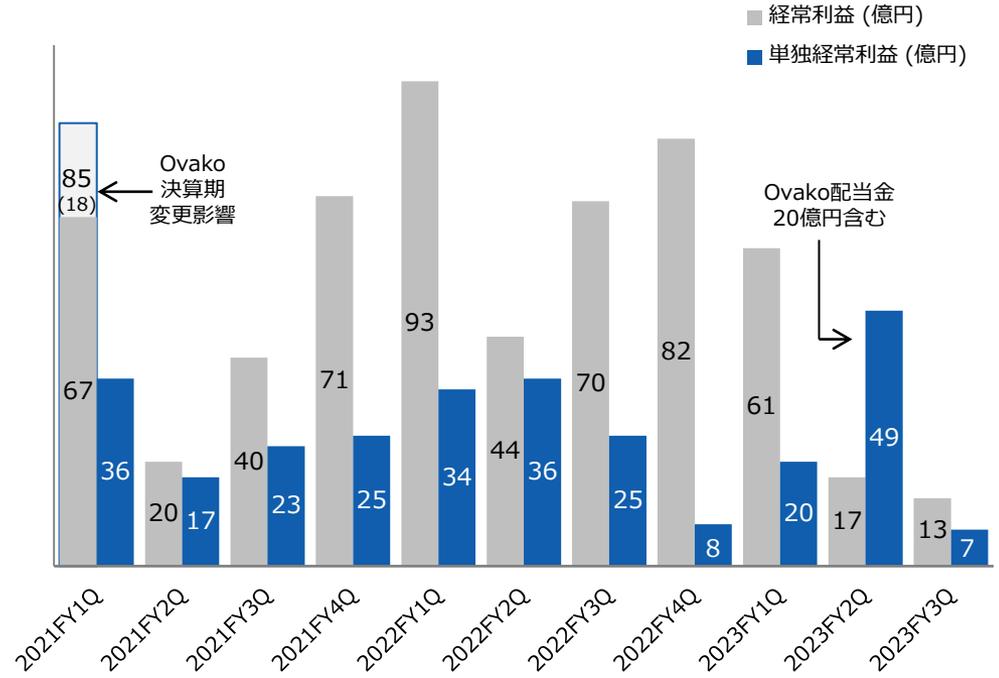
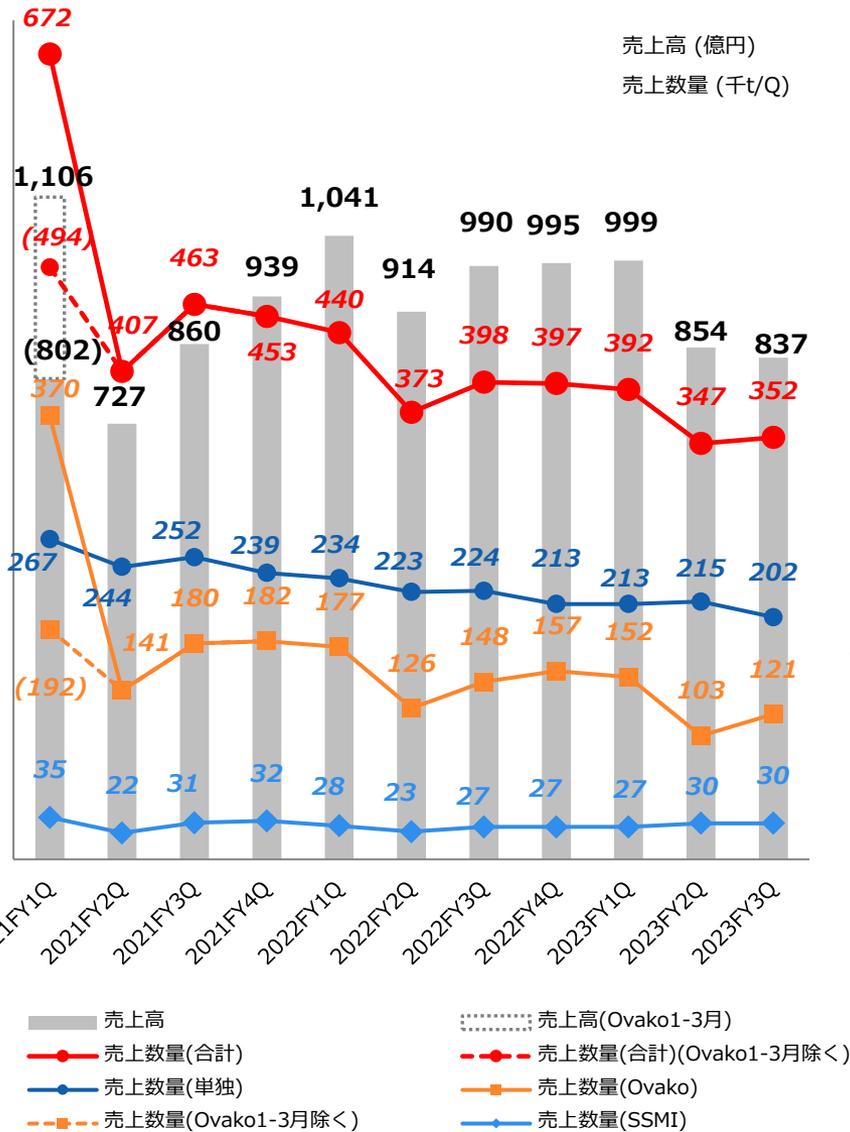
出典：マークラインズ、ACEA



3. 原燃料価格推移



業績推移(四半期)



セグメント別損益

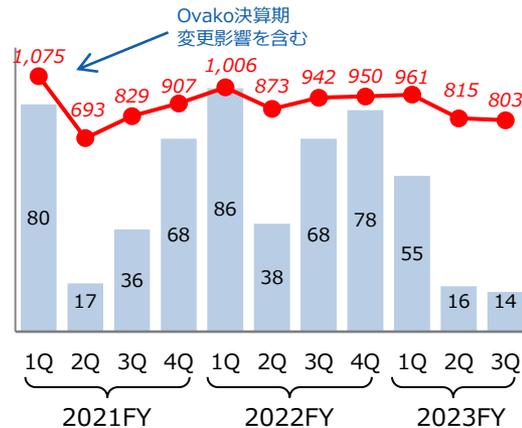
(単位：億円、%)

	2023FY4-12月期 (A)			2022FY4-12月期 (B)			対前年同期 (A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	2,579	85	3.3	2,821	192	6.8	-241	-107	-3.5
粉末	40	7	17.5	39	8	20.6	+1	-1	-3.1
素形材	137	▲4	-3.2	149	3	2.3	-12	-8	-5.5
小計	2,757	87	3.2	3,009	203	6.8	-253	-116	-3.6
その他	10	0	2.4	10	0	2.5	+0	-0	-0.1
調整額	▲77	0	-	▲75	1	-	-2	-0	-
連結計	2,690	88	3.3	2,944	204	6.9	-254	-116	-3.6

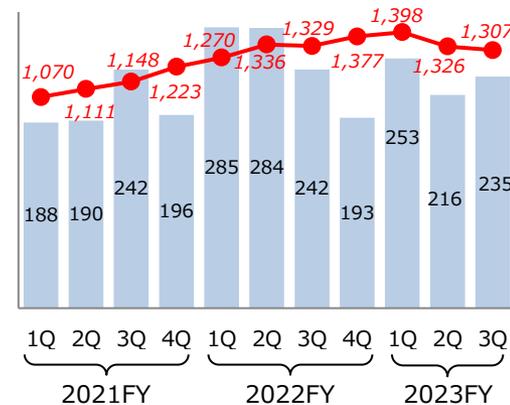
事業別損益推移

■ 営業利益 ● 売上高

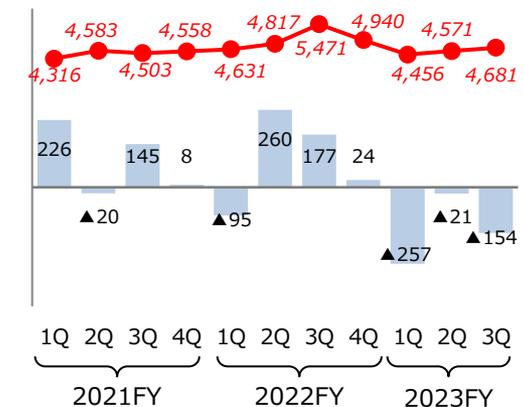
鋼材セグメント (単位：億円)



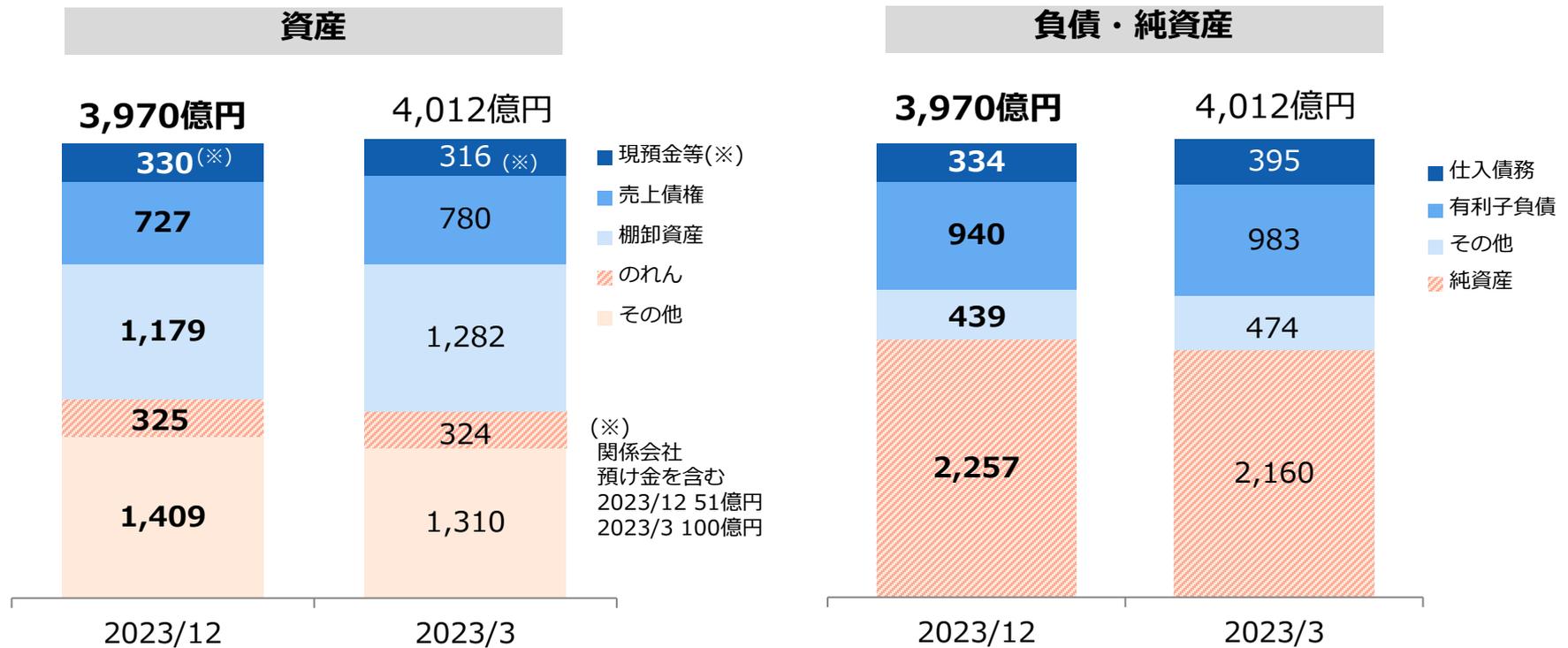
粉末セグメント (単位：百万円)



素形材セグメント (単位：百万円)



貸借対照表 (連結)



資産の主な増減 -43億円 (-1.1%)

[内、為替影響+167億円]

1. 売上債権 -53億円：売上減に伴う減少
2. 棚卸資産 -104億円：在庫削減および原燃料価格の低下
3. のれん +1億円：償却-24億円、為替影響+25億円
4. その他 +99億円：有形固定資産の増加など

負債・純資産の主な増減 -43億円 (-1.1%)

[内、為替影響+167億円]

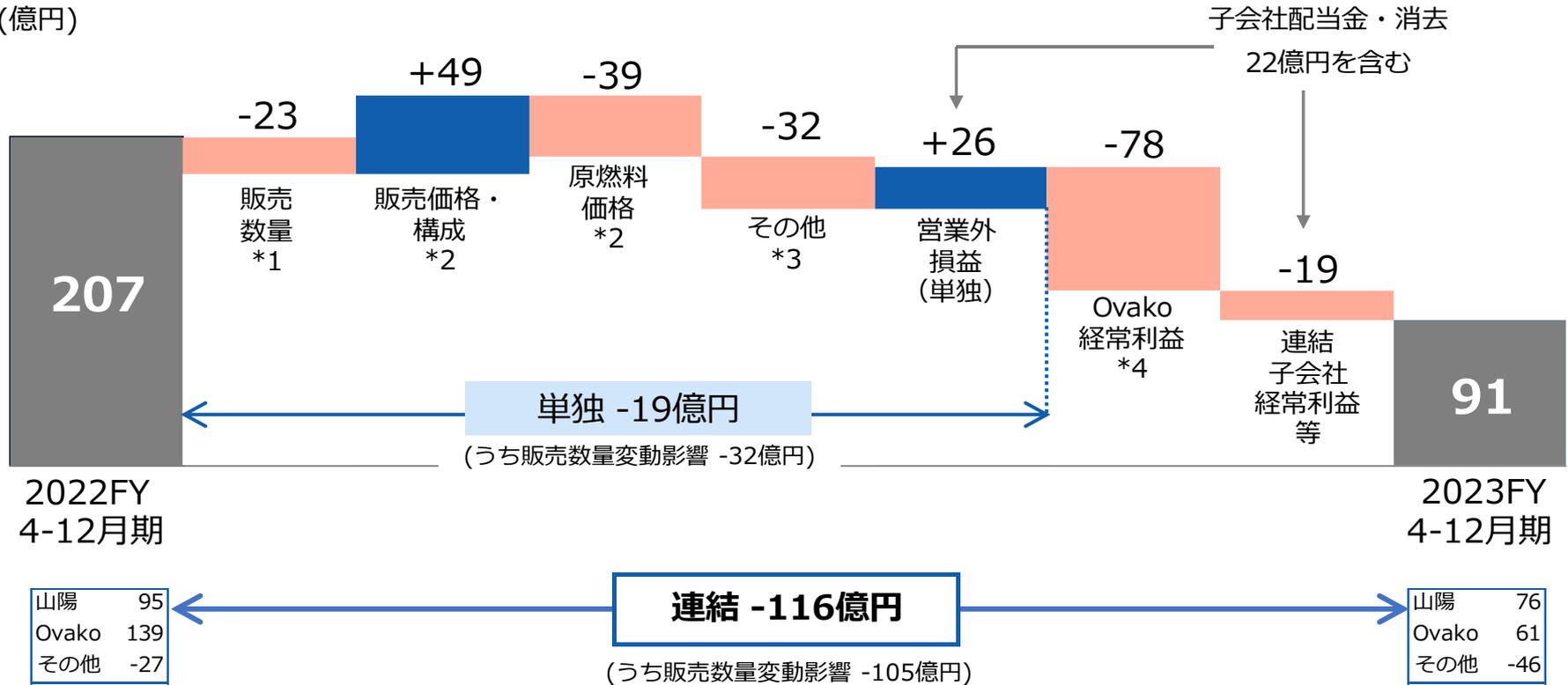
1. 仕入債務 -61億円：売上減に伴う減少
2. 有利子負債 -42億円：運転資金減少による
3. その他 -36億円：法人税等の支払い
4. 純資産 +97億円：為替換算調整勘定+96億円
利益剰余金+20億円
(税後利益+63億円、配当-44億円)
その他-18億円

(参考)主要各社の総資産額(2023/12末：連結消去前)
 当社 2,739億円 Ovako 1,300億円 SSMI 149億円

自己資本比率
 2023/12末 56.3% 2023/3末 53.4%

経常利益の変化要因 (2022FY4-12月期→2023FY4-12月期)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 8%減 (-52千t : 681千t→629千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ-11 (〇8→×2)
- ・ エネルギー+31 (×16→〇15)

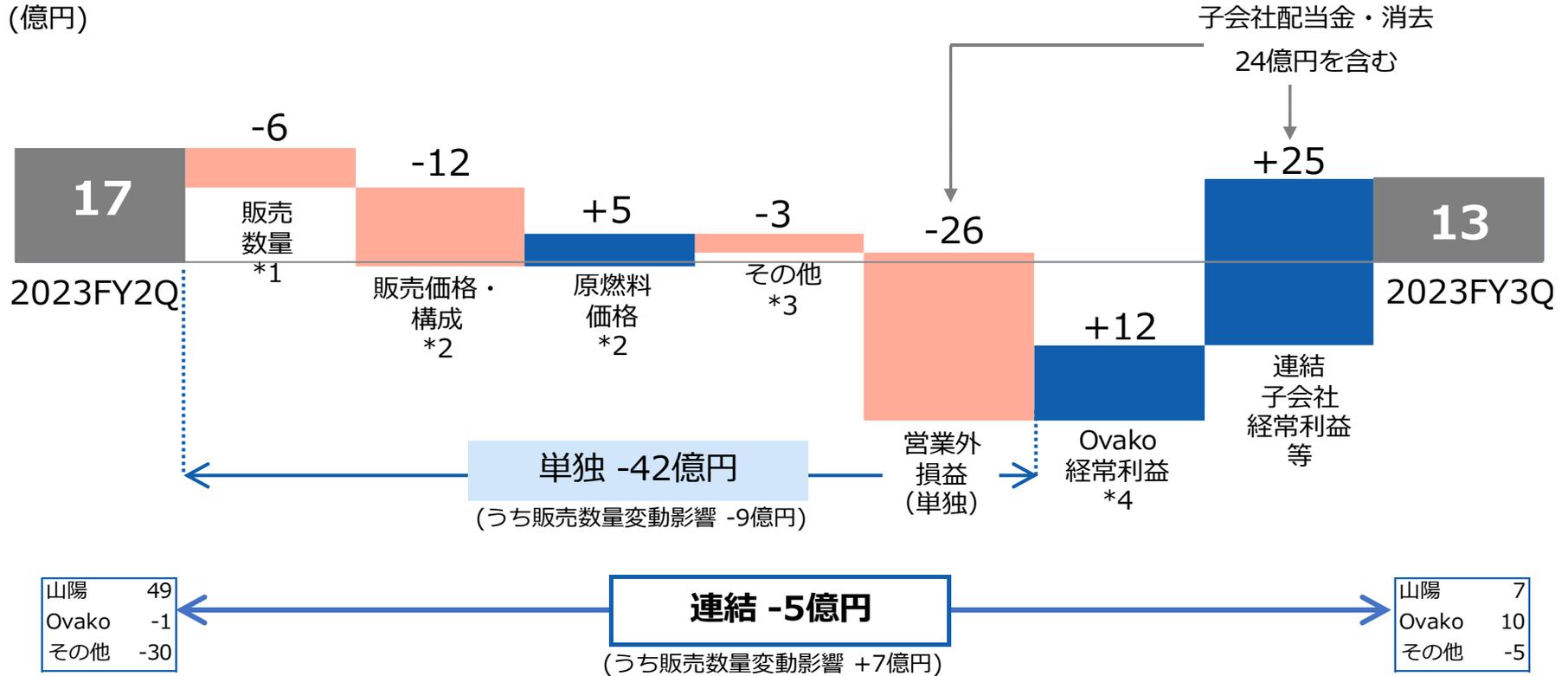
*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+4、諸資材・外注・物流費等-16、修繕費-7、固定費-13

*4 Ovako経常利益

- ・ 販売数量 -73
17%減 (-75千t : 451千t→376千t)
- ・ 一過性要因 -51 (+75→+24)
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -21 (+21→ 0)
健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→ 0)
スクラップ市場価格差 -6 (+24→ +18)
為替影響 -19 (+19→ 0)
エネルギー補助金 +6 (0→ +6)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 +35
- ・ その他 (為替レート差等) +11

経常利益の変化要因 (2023FY2Q→2023FY3Q)



*1 販売数量

- ・ 6%減 (-13千t : 215千t→202千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ-2 (○1→×1)
- ・ エネルギー-3 (○7→○4)

*3 その他内訳

- ・ 固定費+3、
諸資材・外注・物流費等-5、修繕費-1

*4 Ovako 経常利益

- ・ 販売数量 (季節差等) +16
17%増 (+18千t : 103千t→121千t)
- ・ 一過性要因 -8 (+8→0)
 - スクラップ市場価格差 -4 (+7→ +3)
 - 為替影響 -1 (-2→ -3)
 - エネルギー補助金 -3 (+3→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 +10
- ・ その他 (固定費等) -7

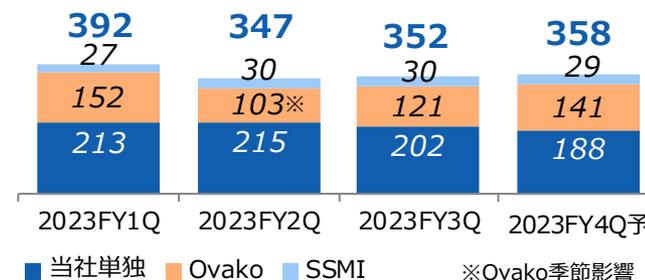
2. 業績予想等

2023FY業績予想 (2024/2/2公表)

連結経常利益120億円(前回予想比-80億円)

中国経済の減速等を背景に、建設・産業機械分野を中心に需要が減少し大幅な在庫調整が発生。欧州経済の低迷も継続。当社およびOvakoの売上数量の急激な減少やそれに伴う製造コストの上昇、販売構成の悪化などにより大幅な減益が見込まれるため、通期連結経常利益予想を前回予想比80億円減益の120億円に修正。誠に遺憾ながら、配当予想も修正(次ページ)。

[参考] 売上数量推移 (千t/Q)



(単位：億円、%)

	今回予想(24/2/2)				前回予想(23/10/31)		増減		
	上期実績	3Q実績	4Q予想	下期	通期	下期	通期	前回予想 →今回予想	3Q→ 4Q予想
売上高	1,853	837	860	1,697	3,550	1,947	3,800	-250	+23
営業利益	73	15	26	41	114	127	200	-86	+11
経常利益	78	13	29	42	120	122	200	-80	+17
内、当社単独	69	7	9	16	85	64	133	-48	+2
内、Ovako	51	10	24	34	85	59	110	-25	+14
内、SSMI	3	2	2	4	7	4	7	-	+1
内、のれん償却費	▲16	▲8	▲8	▲16	▲32	▲16	▲32	-	+0
税後利益 (注1)	52	11	22	33	85	88	140	-55	+11
ROE (%)					3.9		6.3	-2.4	
のれん償却費を除く税後利益	68	19	30	49	117	104	172	-55	+11
ROE (%)					5.4		7.8	-2.4	

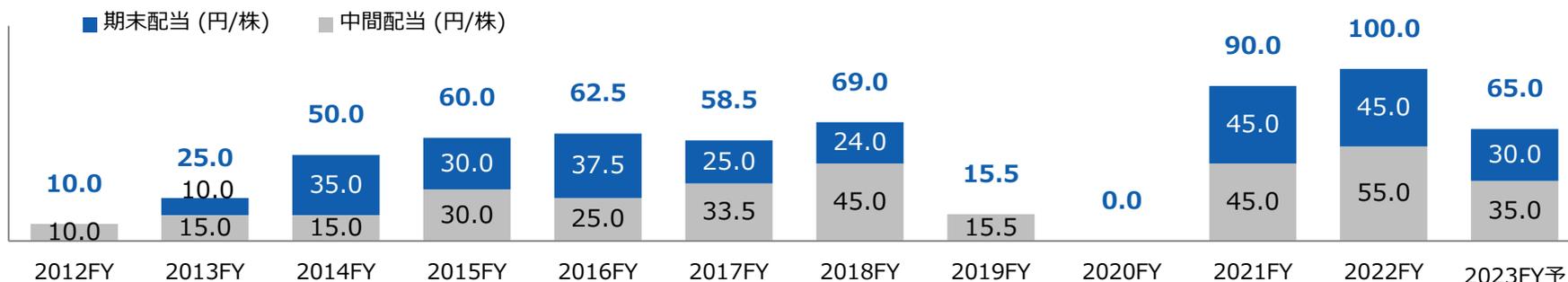
(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益 (注2) SSMI : 1月~12月の数値

【予想の主要前提(2024年1月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 52.0 千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 80\$/BL ・為替 145円/\$、155円/€

2023FY配当予想 (2024/2/2公表)

	中間 (実績)	今回予想 (2024/2/2公表) (A)		前回予想 (2023/10/31公表) (B)		増減 (A)-(B)	
		期末	通期	期末(予)	通期	期末	通期
1株当たり純利益	A	96.1円	156.0円	257.0円			-101.0円
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	125.3円	214.7円	315.7円			-101.0円
1株当たり配当金	C	35.0円	30.0円	65.0円	65.0円	100.0円	-35.0円 -35.0円
配当性向	C/A	36.4%	41.7%	38.9%			+2.8%
	C/B	27.9%	30.3%	31.7%			-1.4%



<配当方針>

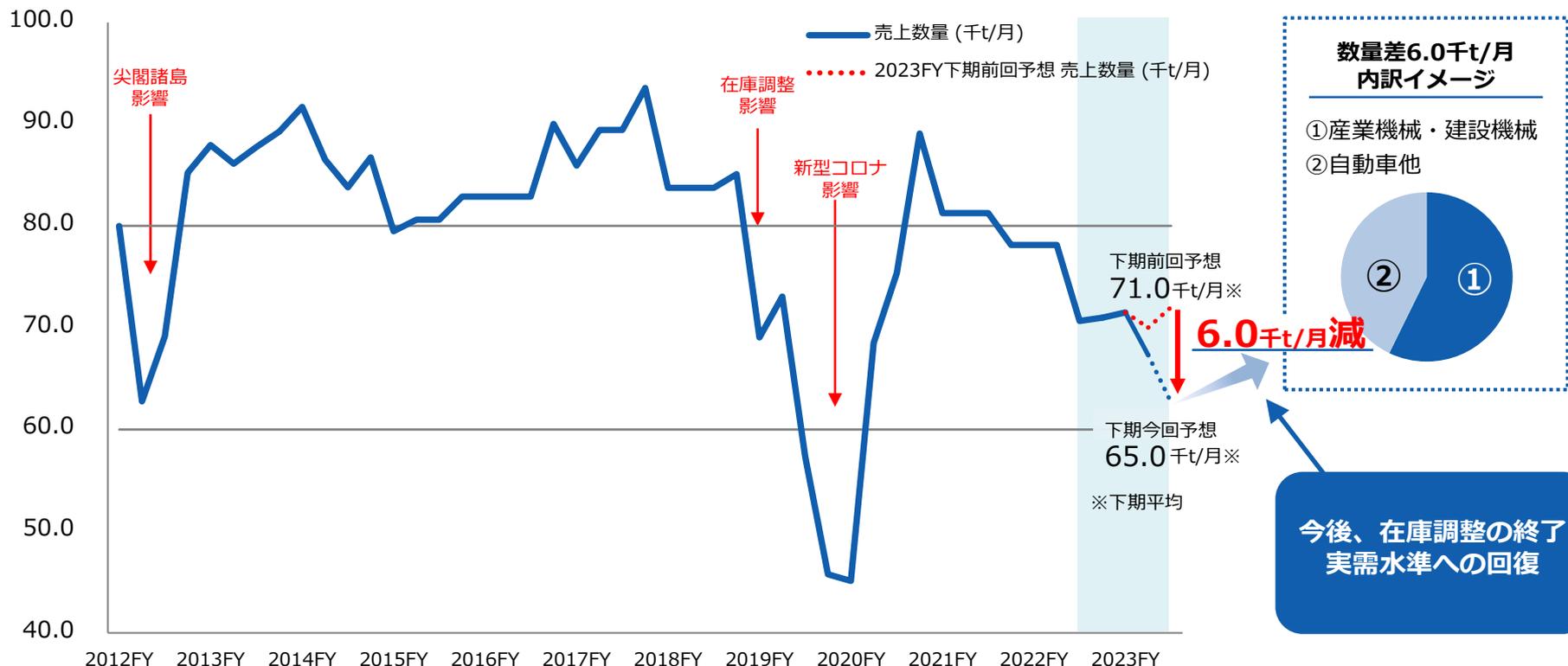
配当性向、1株当たり配当額水準および成長投資等の所要資金などを総合的に勘案
通常の連結配当性向**35%**程度、のれん償却除き**30%**程度を目安とする

売上数量推移 (単独)

需要動向

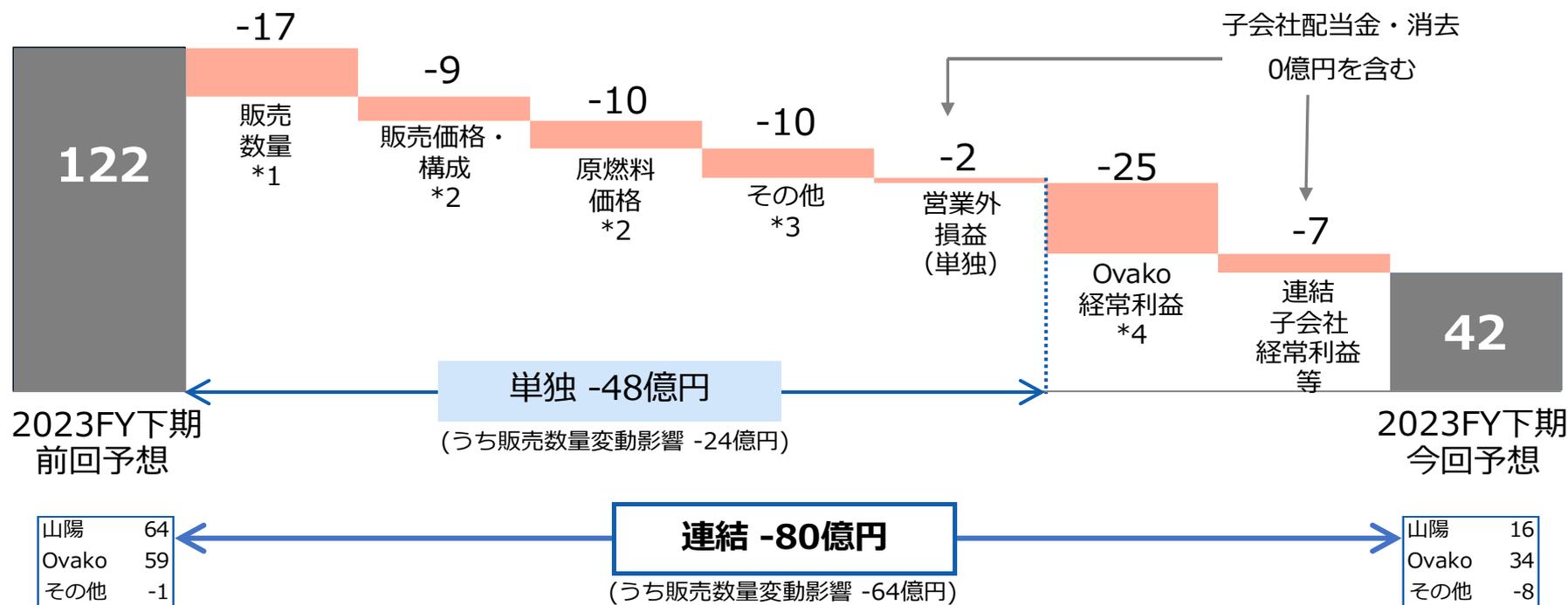
- ① 産業機械向け：下期での在庫調整からの戻りを想定したが、中国経済の減速により工作機械・半導体製造装置分野の需要が低迷。需要家の減産により在庫調整が拡大。
- ① 建設機械向け：下期は堅調をキープすると想定したが、世界経済の不透明感や金利の高止まりによる投資意欲の減退により需要が縮小。需要家が減産に転じたことにより在庫調整局面となった。
- ② 自動車向け：下期での緩やかな回復を想定したが、メーカー間の跛行性があり、サプライチェーン内でも局所的な在庫調整が散見。

売上数量推移 (単独)



経常利益の変化要因 (2023FY下期前回予想→2023FY下期今回予想)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 8%減 (-36千t : 426千t→390千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ-1 (〇〇→×1)
- ・ エネルギー-7 (〇18→〇11)

*3 その他内訳

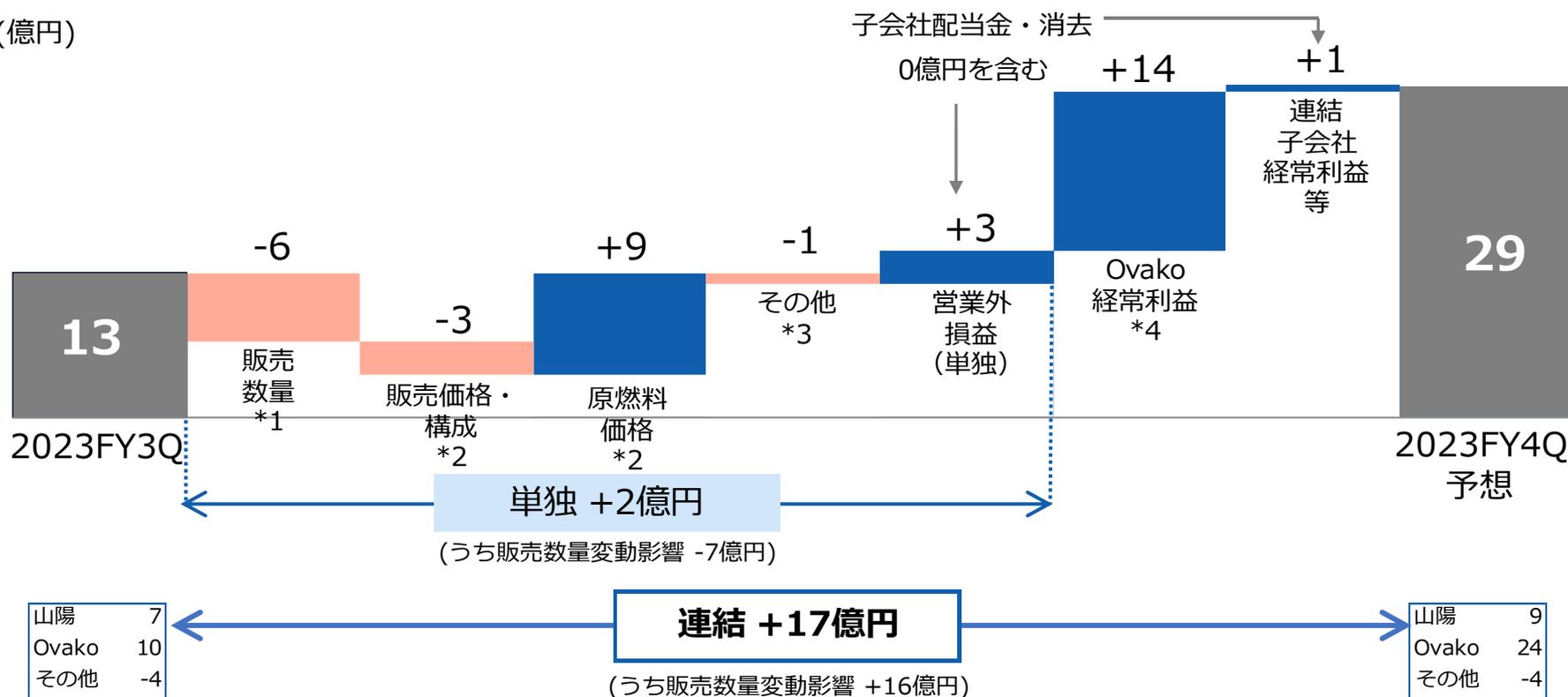
- ・ 変動費コストダウン-3、諸資材・外注・物流費等-6、修繕費-1

*4 Ovako経常利益

- ・ 販売数量 -40
14%減 (-43千t : 304千t→262千t)
- ・ 一過性要因 0 (0→0)
うち、スクラップ市場価格差 +3 (0→ +3)
為替影響 -3 (0→ -3)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 +13
- ・ その他 +2

経常利益の変化要因 (2023FY3Q→2023FY4Q予想)

(億円)



*1 販売数量

- 7%減 (-14千t : 202千t→188千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ+1 (×1→○0)
- エネルギー+2 (○4→○7)

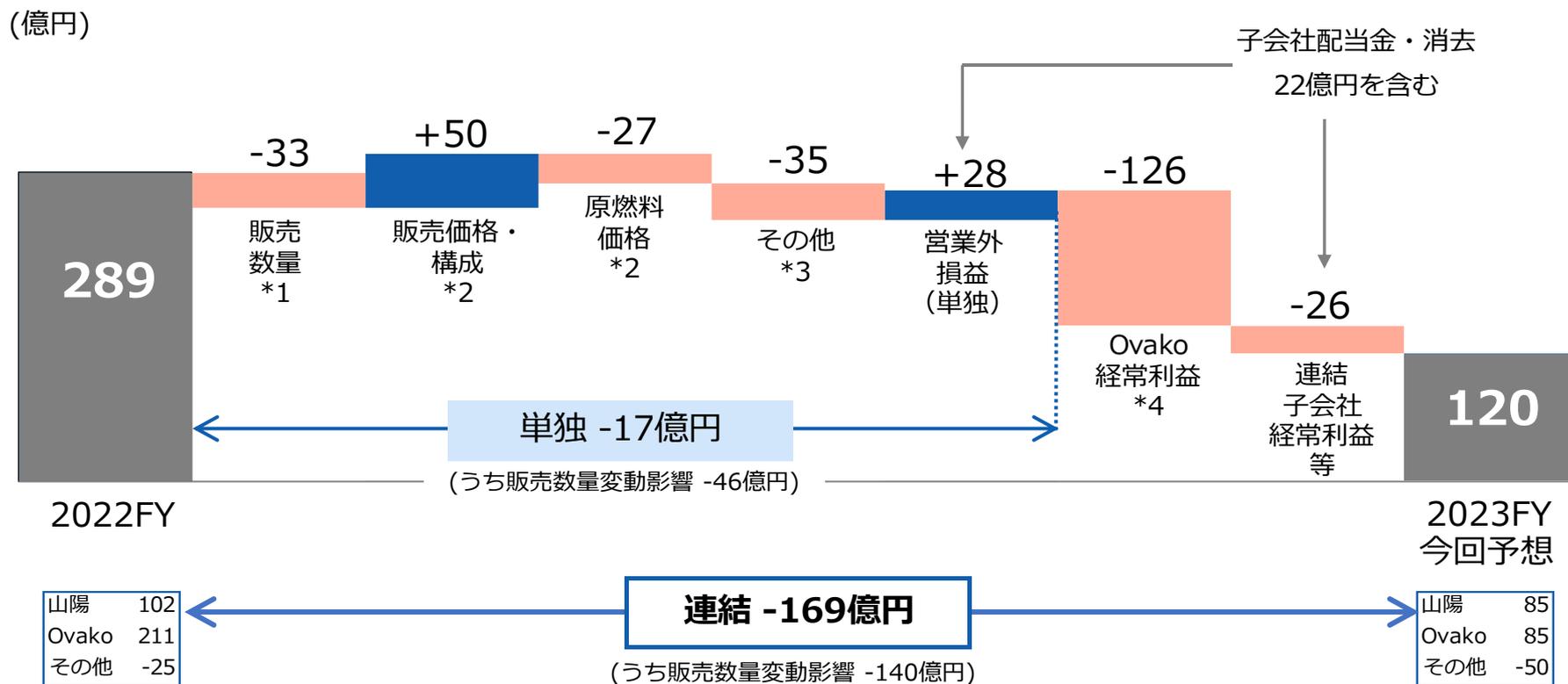
*3 その他内訳

- 変動費コストダウン-1

*4 Ovako 経常利益

- 販売数量(季節差等) +23
17%増 (+20千t : 121千t→141千t)
- 一過性要因 0 (0→0)
 - スクラップ市場価格差 -3 (+3→ 0)
 - 為替影響 +3 (-3→ 0)
- 販売・原燃料価格、構成 -1
- その他(固定費等) -8

経常利益の変化要因 (2022FY→2023FY今回予想)



*1 販売数量

- 9%減 (-77千t : 894千t→817千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ-15 (○13→×2)
- エネルギー+51 (×30→○21)

*3 その他内訳

- 変動費コストダウン+6、諸資材・外注・物流費等-23、修繕費-6、固定費-12

*4 Ovako 経常利益

- 販売数量 -94
 - 15%減 (-91千t : 608千t→517千t)
- 一過性要因 -72 (+96→+24)
 - うち、エネルギーサーチャージ基準差 -28 (+28→ 0)
 - 健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→ 0)
 - スクラップ市場価格差 -15 (+33→ +18)
 - 為替影響 -24 (+24→ 0)
 - エネルギー補助金 +6 (0→ +6)
- 販売・原燃料価格、構成 +30
- その他 (為替レート差等) +10

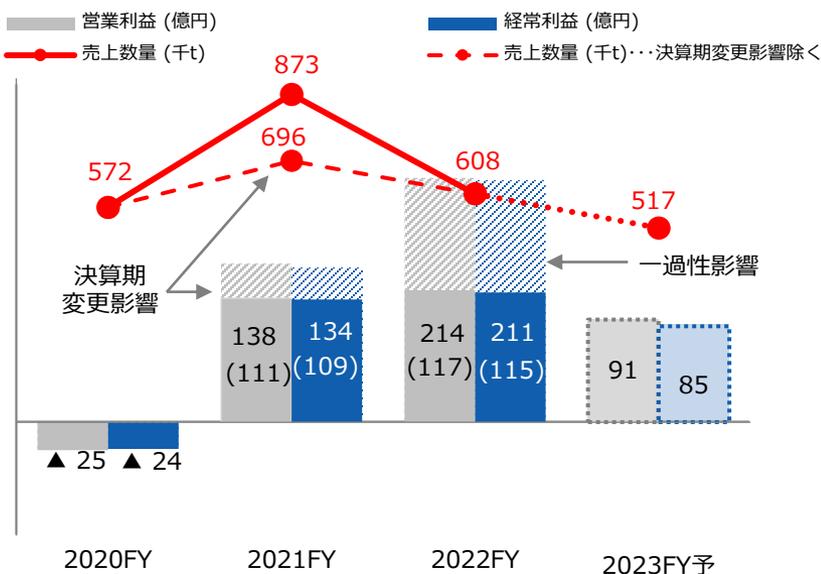
Ovakoの状況

2023FY見通し

経常利益85億円(前期比-126億円)

- ・ 2023FY4-12月期は、欧州において金利が高位で留まっている影響などで景気が回復せず、需要の低迷が継続。在庫調整の影響もあり、販売数量が前回予想より減少。一過性要因の減少もあり、2023FY4-12月期の経常利益は61億円(前年同期比では-78億円)。
- ・ 2023FY4Qも需要回復は漸進的と想定され、前回予想より販売数量減を見込む。2023FY4Qの経常利益は24億円を計画。固定費のコントロールの徹底、生産構造最適化の着実な実行、カーボンニュートラルの強みを活かした販売等に取り組み取り組む。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと3社連携

1. 収益力の強化

- ① ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
- ② ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ③ 固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る

2. 3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進
- ② 操業支援によるコスト削減
- ③ 調達コストの削減

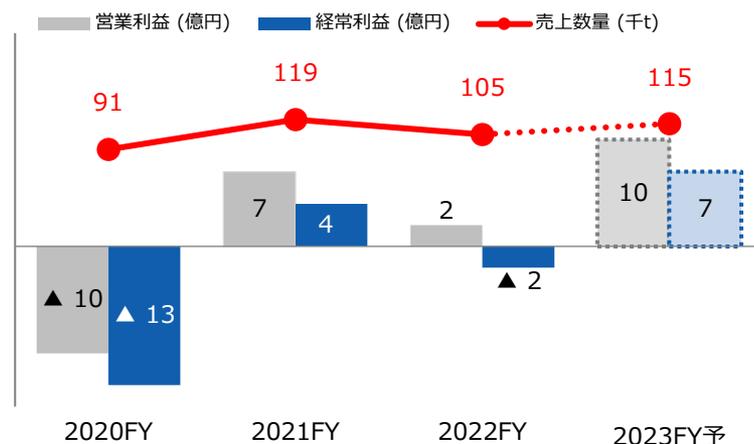
SSMIの状況

2023FY見通し

経常利益7億円(前期比+9億円)

- ・ 2023FY1-9月期は、前年同期比で売上数量が増加したことに加え、原燃料価格が下落した影響もあり、経常利益は5億円(前年同期比+8億円(-4→5))。
- ・ 高収益分野を中心にした販売数量の拡大に加え、安価鉄源の活用や電力コスト低減の取り組みおよび生産工程の見直しなどによるコスト改善施策を遂行し、2023FYは経常利益7億円を計画。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化に向けた取り組み

1. 営業基盤・営業体制の強化
高潔浄度技術を活かした営業戦略策定
拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
2. 変動費の削減
エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の活用による操業コスト・調達コストの削減
3. 固定費の抑制
増資に伴う借入金の返済等による、金利コストの削減

- ・ 少数株主である三井物産(株)から株主間協定に基づくプットオプション行使の通知を受け、2024年2月2日、同社が保有するSSMIの全株式を取得する株式譲渡契約を締結。これにより**当社の出資比率は100%となる予定**。
- ・ **生産、販売、技術、人材、財務面等を一層強化**することにより、**中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固たるものとし、当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長**を図る。

3. トピックス

トピックス

1. 投資家向けESG説明会を開催 (2023年12月13日)

- 「山陽特殊製鋼レポート 2023」(統合報告書)発行にあわせ、投資家向けのESG説明会を開催。投資家等24名にご参加いただいた。ESGに特化した説明会開催は当社では初めての取り組み。
- 説明会資料および質疑メモ、動画は当社ホームページにおいて公開中。

「山陽特殊製鋼レポート 2023」 (統合報告書)

当社ホームページにて
閲覧可能



<https://www.sanyo-steel.co.jp/social/csr2023.php>



代表取締役社長、取締役常務執行役員、常務執行役員が説明者として登壇

2. 株主向け工場見学会を開催 (2023年12月16日)

- 当社への理解を深めていただくことを目的とした株主向け工場見学会を開催。
- 2023年3月末時点で1年以上かつ500株以上保有の株主を対象にご案内し、33名の株主にご参加いただいた。
- 株主向けの工場見学会は2019年3月以来、4年ぶりの開催。



トピックス

3. 採用サイトリニューアル (2024年1月25日)

- ・採用広報の強化に向け、新卒採用向けサイトをリニューアル。
- ・「技術・製品はもちろん人や地球環境も長期的な視点で見つめ、大切に培っていく」というコンセプトのもと、特殊鋼に親しみを感じてもらえるようにデザインを一新。
- ・当社の魅力が様々な角度から伝わるよう「先輩社員インタビュー」や「若手社員の“声”」、「山陽特殊製鋼のグローバル展開」など多くのコンテンツを掲載。



山陽特殊製鋼 採用サイト
<https://www.sanyo-steel.co.jp/saiyo/>

4. SNSアカウントを開設 (2023年11月)

- ・SNSの当社公式アカウントを開設。
- ・幅広い層へのPRを目指し、当社グループの取り組み等を発信中。

Instagram



X (旧twitter)



YouTube



トピックス

5. Ni・Mo フリー高強度肌焼鋼ECOMAX®シリーズについて 「エコリーフ」の認証を取得 (2023年12月3日公表)

- ・ Ni・Mo フリー高強度肌焼鋼「ECOMAX®シリーズ」について、第三者機関によって検証された環境情報を定量的に開示する環境ラベル「エコリーフ」の認証を取得。
- ・ 「ECOMAX®シリーズ」は、部品製造時における工程省略・簡略化に寄与する鋼材特性を有し、使用されるお客様のCO₂排出削減に貢献することが可能。

エコリーフ

製品の全ライフサイクルを踏まえた定量的な環境情報を開示する環境ラベル。第三者検証によって信頼性・透明性が確保されたデータの開示により、お客様が環境に配慮した製品選択を行ううえで判断材料とすることが可能。



JR-AW-23020E

6. 山陽特殊製鋼 創業90周年 (2023年11月10日)

- ・ 2023年11月10日で、当社は創業90周年を迎えた。
- ・ 創業90周年事業の一環として、会社紹介動画を刷新。新しい会社紹介動画は当社ホームページおよびYouTubeにて公開中。

<90周年スローガン・記念ロゴ>

「感謝を胸に90周年
進め100年
その先へ」



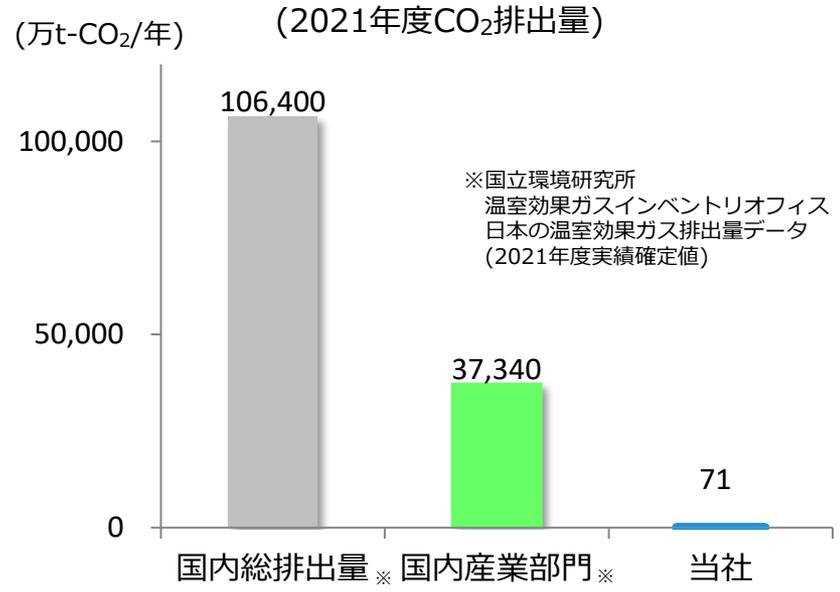
山陽特殊製鋼グループ紹介動画

<https://www.sanyo-steel.co.jp/company/introduce.php>

4. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

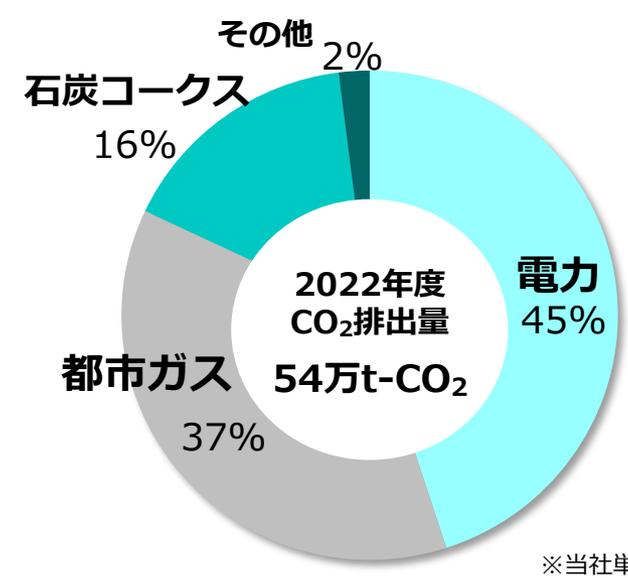
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ



■再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



■当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

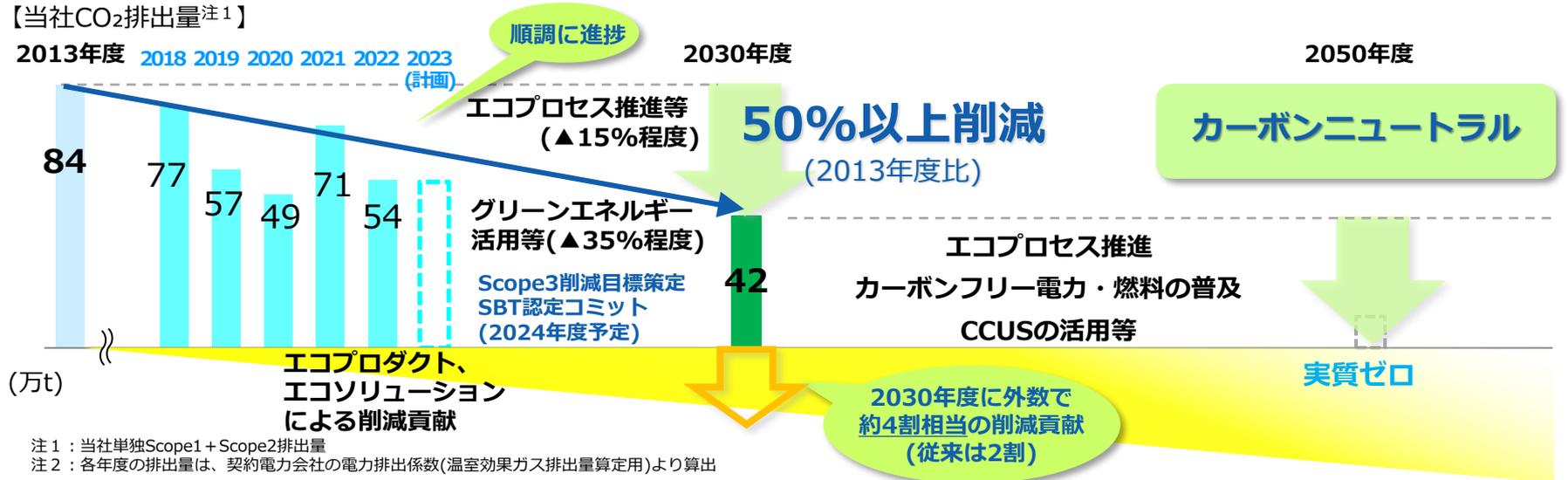
GXリーグへの参画

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同、2023年5月にGXリーグに参画した。

自主的な排出量取引、市場創造のためのルール形成、ビジネス機会の創発、GXスタジオでの交流といったGXリーグにおける活動に積極的に参加していく。



2050年に向けた当社のロードマップ



エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進

- リジエネバーナーを採用した省エネ加熱炉
- ※2023年度からインターナショナルカーボンプライシングを導入

グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用

- ※2022年度から再エネ由来電力の一部活用を開始

エコプロダクト

製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進

- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発

エコソリューション

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、SSMI等の海外グループ会社に展開

- 海外グループ会社への技術展開

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化

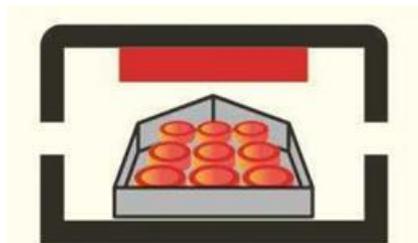


長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化
(CO₂削減効果は推計で1.3万トン/年*)

工程省略鋼



(高強度肌焼鋼：ECOMAX®シリーズ)
熱処理の省略・簡略化



(高硬度高靱性鋼：TOUGHFIT®)
新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

*第18回 日本LCA学会 研究発表会（2023年3月10日）にて発表

- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

2020年
4月

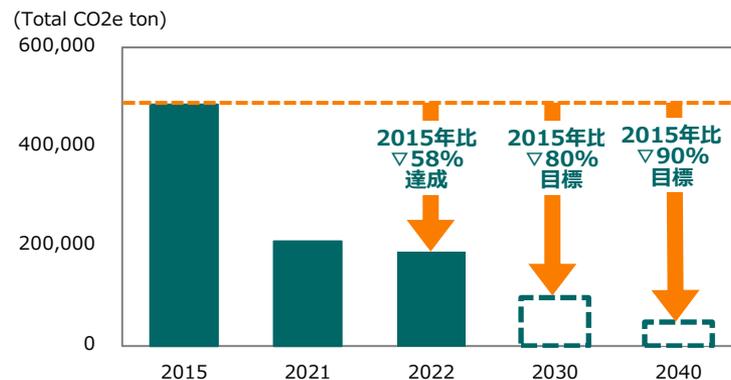
2022年1月から カーボンニュートラルに移行

2022年
1月

自社の製造プロセスにおける CO₂排出を実質ゼロに

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量を相殺
- ✓ 気候サーチャージを適用

OvakoのCO₂排出量(Scope1+2)ロードマップ



Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2022をもとに作成

カーボンフリー水素プラント稼働開始

2023年
9月

欧州最大級の設備

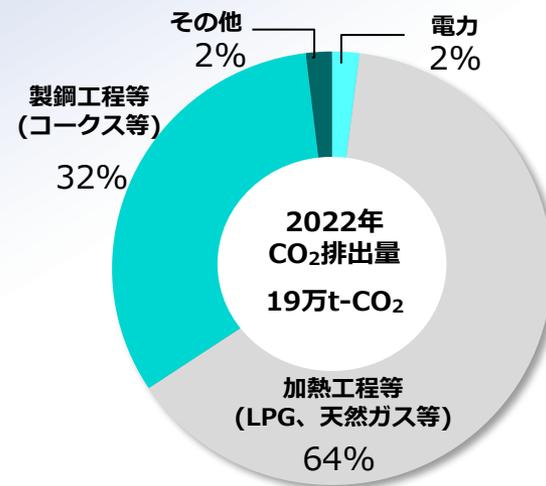
Hofors工場加熱工程で
排出するCO₂を
約50%(約2万t/年)
削減可能



顧客との協同取り組み事例

- SKFと協同し、CO₂排出量90%減の軸受生産を達成
- Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車 製造プロジェクトへ参画

OvakoのCO₂排出量内訳

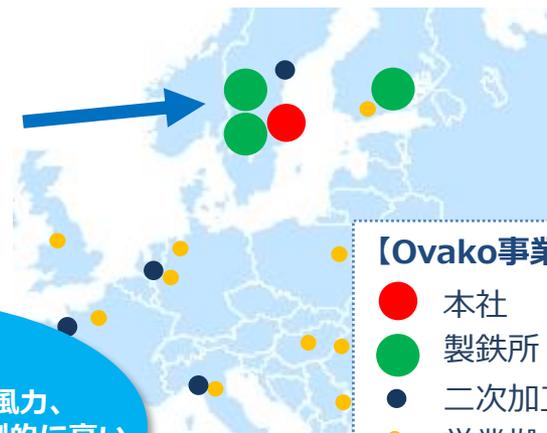


Ovakoのカーボンフリー水素プラントについて

- スウェーデン政府の財政支援と現地有力企業 (Volvo Group等)の参加を受けて、スウェーデンHofors工場内に建設
- 投資総額180百万SEK(スウェーデンクローネ)
※うち約4割をスウェーデン政府が財政支援
- 脱化石電力を使用した水の電気分解で、毎時約4千m³(約3千t/年)のカーボンフリー水素を生成可能
- 加熱炉等の燃料をカーボンフリー水素に転換することで、Hofors工場の加熱工程で発生するCO₂の約50%(約2万t/年)が削減可能



Hofors工場



【Ovako事業拠点】

- 本社
- 製鉄所
- 二次加工
- 営業拠点

※スウェーデンは
 ・脱化石電力(水力、風力、原子力) 比率が圧倒的に高い
 ・産業用電力料金は日本の1/2~1/3程度

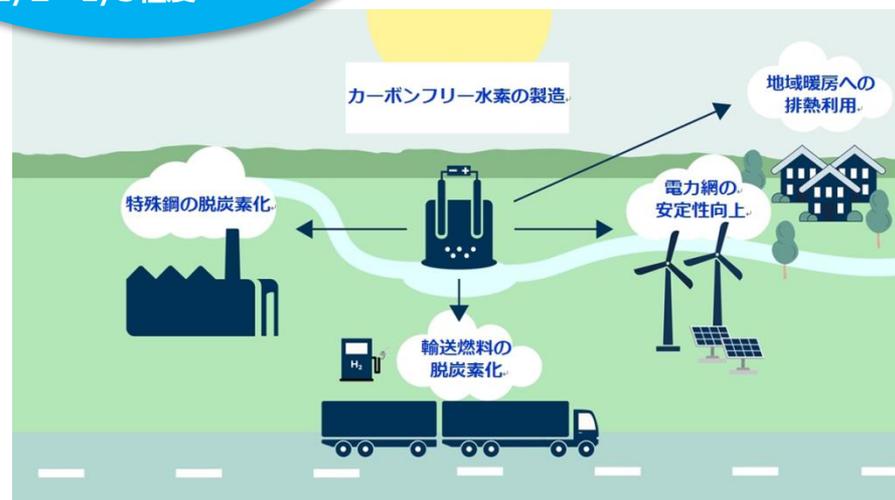
Ovakoは世界初 水素を燃料に用いた鋼材加熱に成功

2020年4月にスウェーデンのHofors工場で、ピット炉の燃料に水素を用いた鋼材加熱に世界で初めて成功



(ご参考)スウェーデンの財政支援制度について

- Industriklivet (= Industrial Evolution)
- ・スウェーデン鉱工業部門のGHG排出ゼロへの移行に向けて、技術開発を支援するためのプログラム (スウェーデンエネルギー庁所管)
- ・2021年の予算は750百万SEK(約100億円)、2020年は600百万SEK(約80億円)。なお、財政支援は2028年まで継続予定

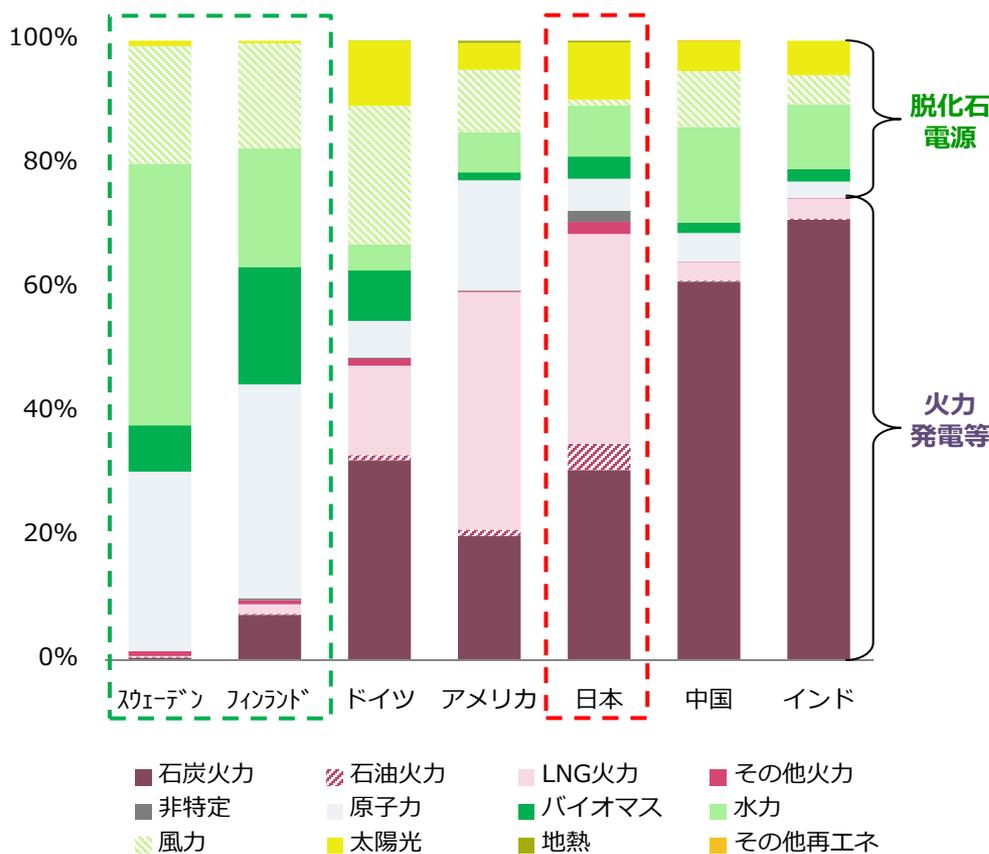


水素プラントは地域水素インフラ整備の第一歩。将来的には燃料電池トラック等への供給や、電力ネットワークとの相互作用実証等を通じた地域電力網の安定性向上、地域暖房への排熱利用等への貢献も期待されている。

各国の電源構成と産業用電力価格

電源構成(2022年)

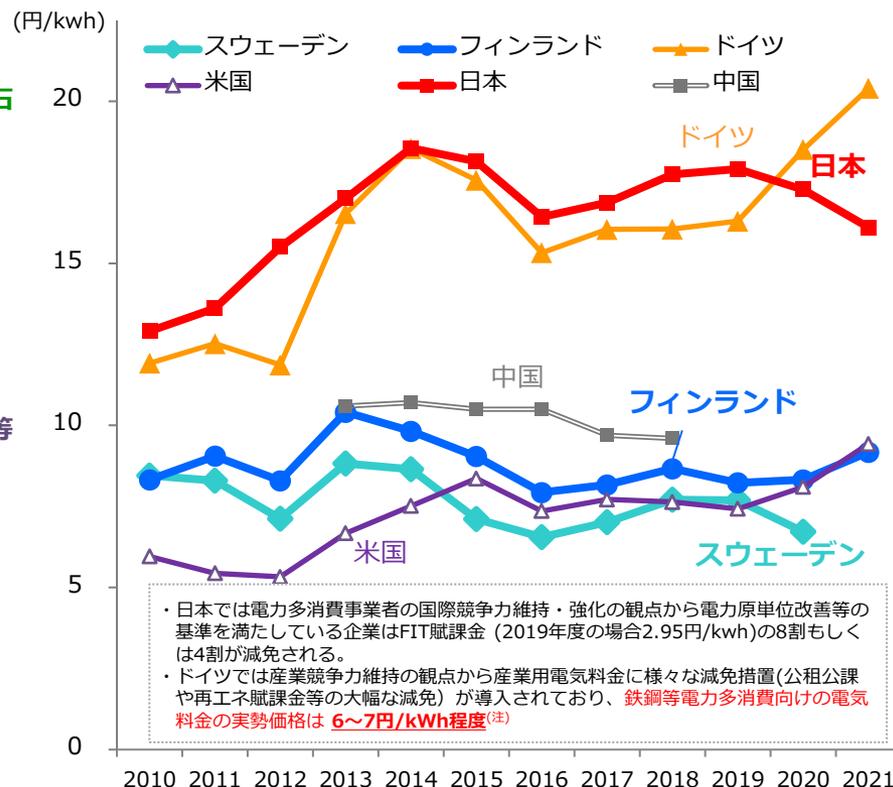
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度



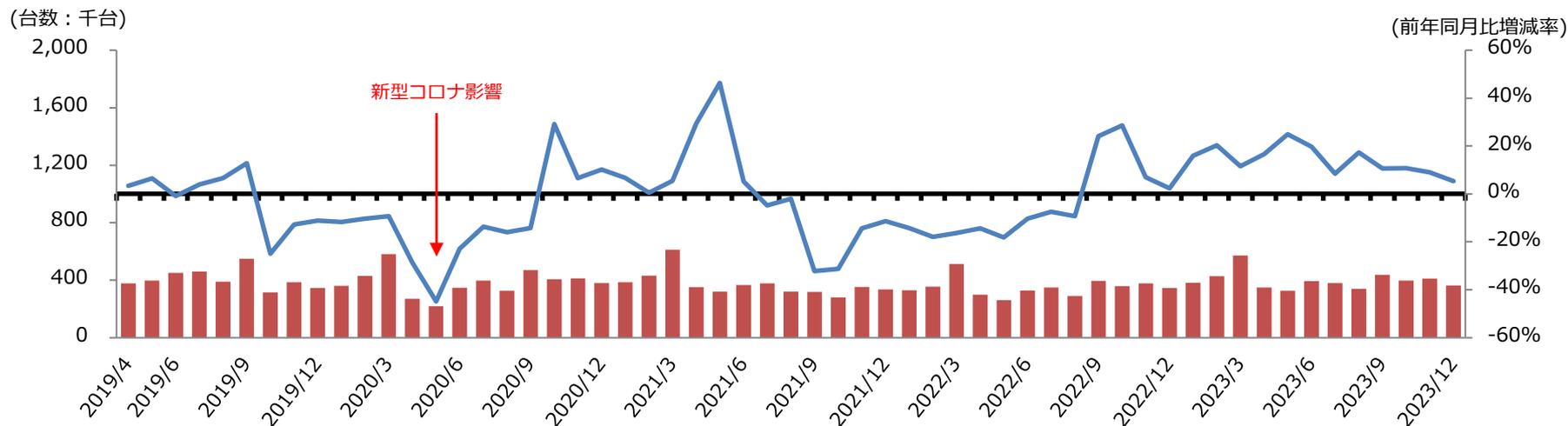
※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

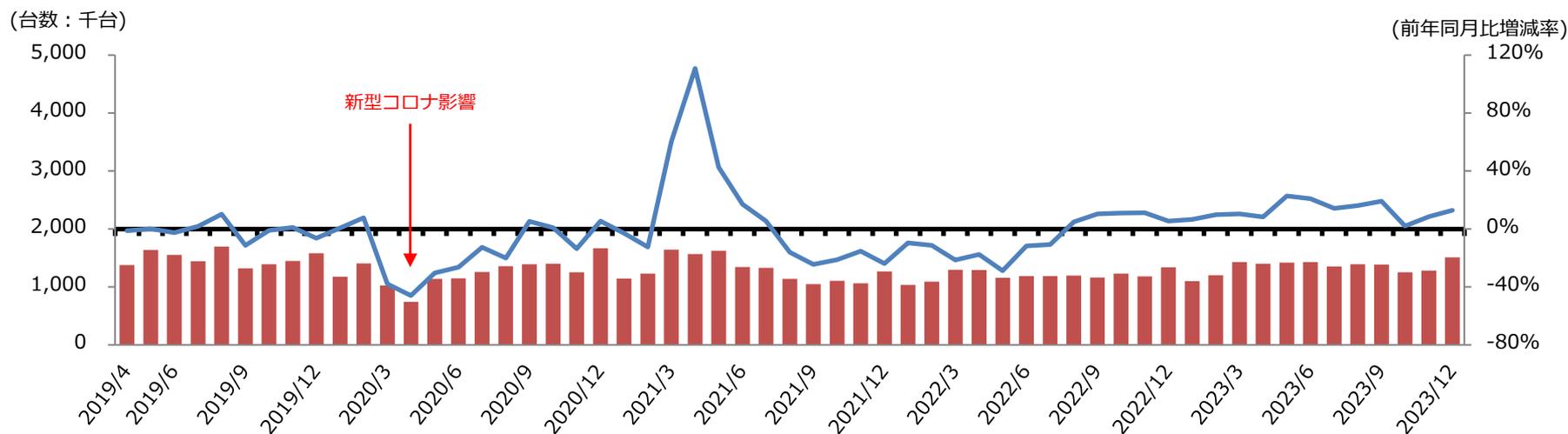
5. 參考資料

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 出典：マークラインズ



米国自動車販売台数 出典：マークラインズ

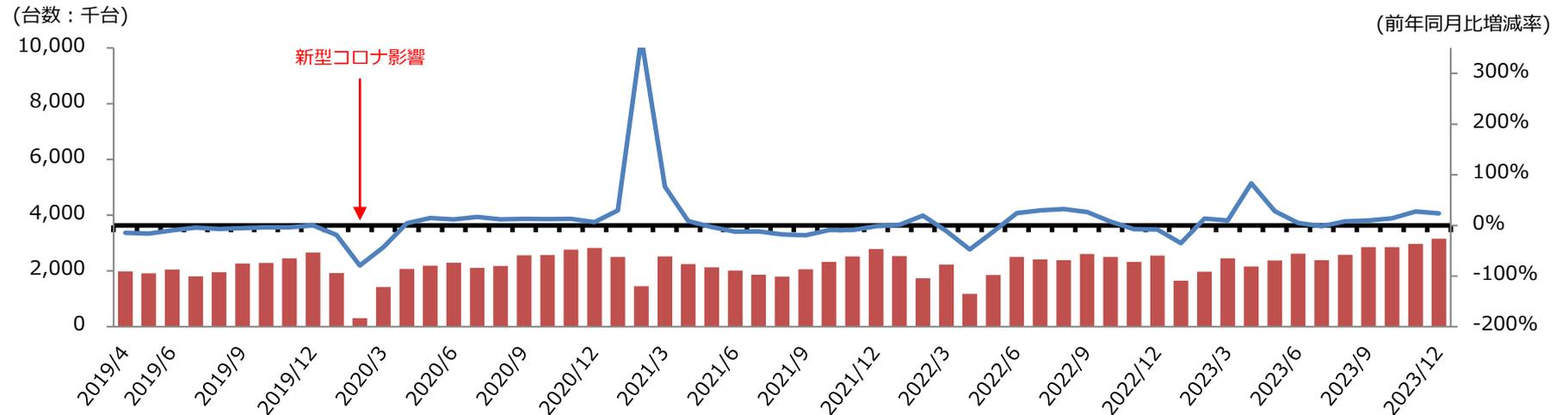


自動車市場の動向

インド自動車販売台数 出典：マークラインズ

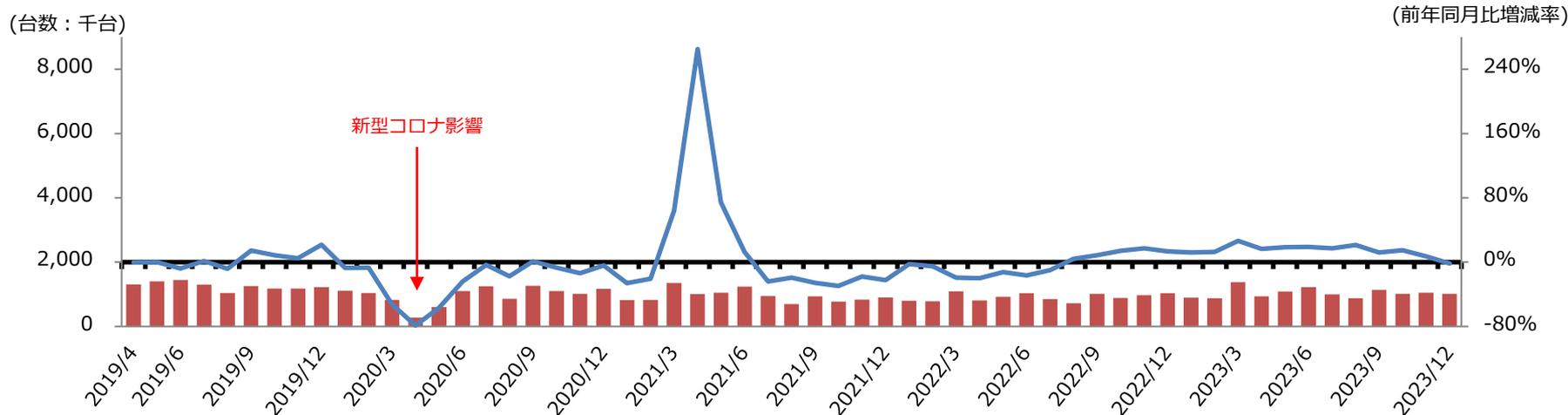


中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース) 出典：マークラインズ

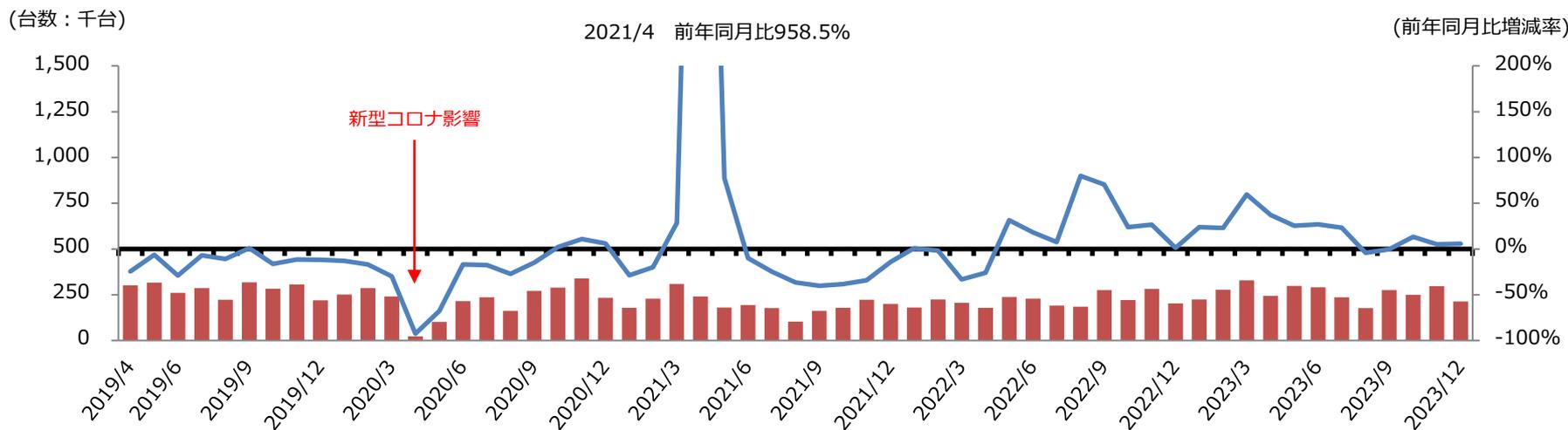


自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 出典：ACEA

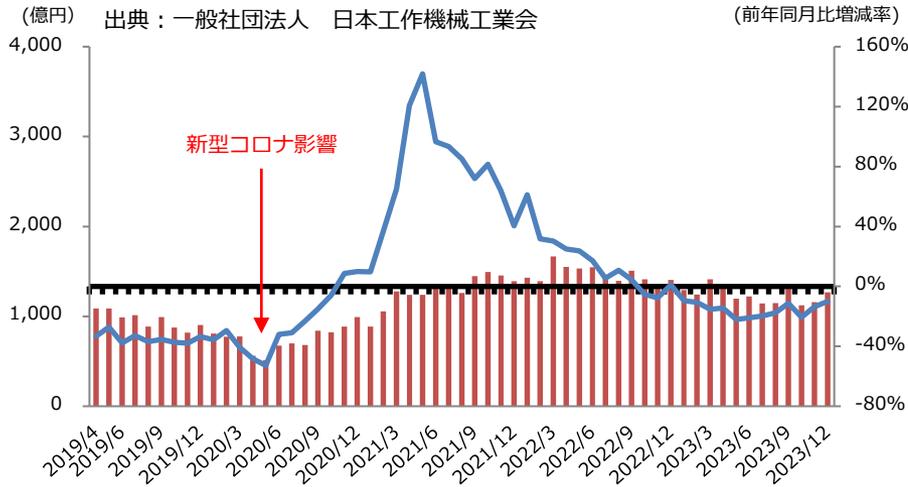


ドイツ自動車輸出台数 出典：VDA

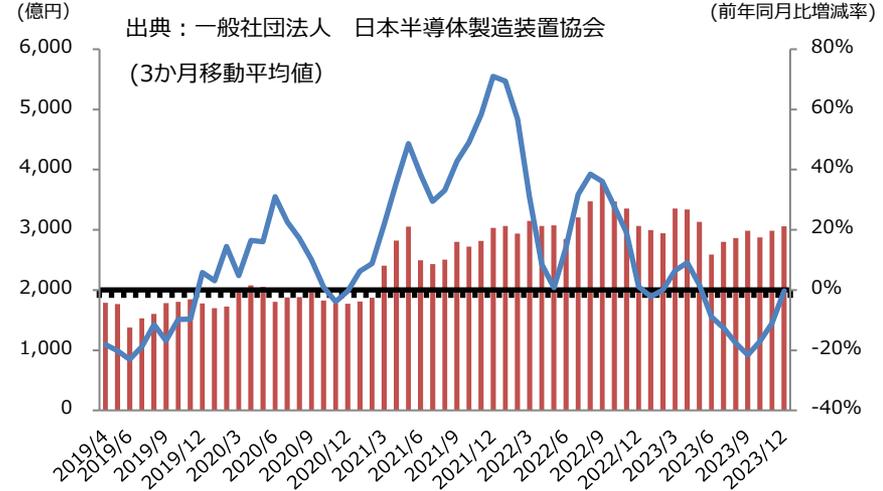


産業機械・建設機械市場の動向

工作機械受注金額(日本)



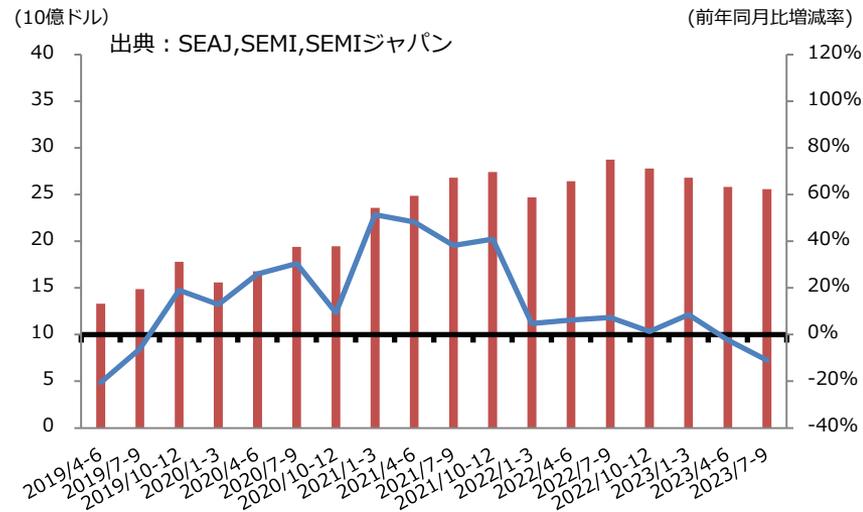
半導体製造装置販売金額(日本)



ショベル系建設機械国内生産台数

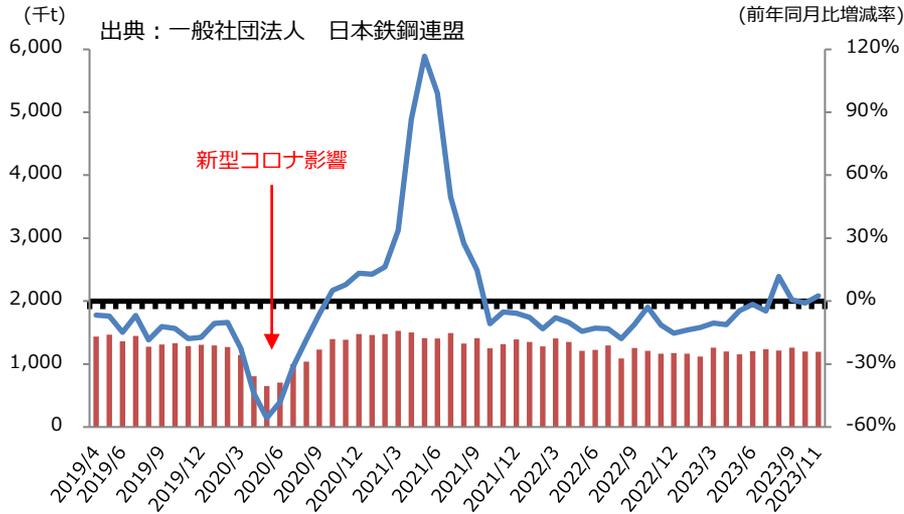


半導体製造装置販売金額(世界)



特殊鋼需要の動向

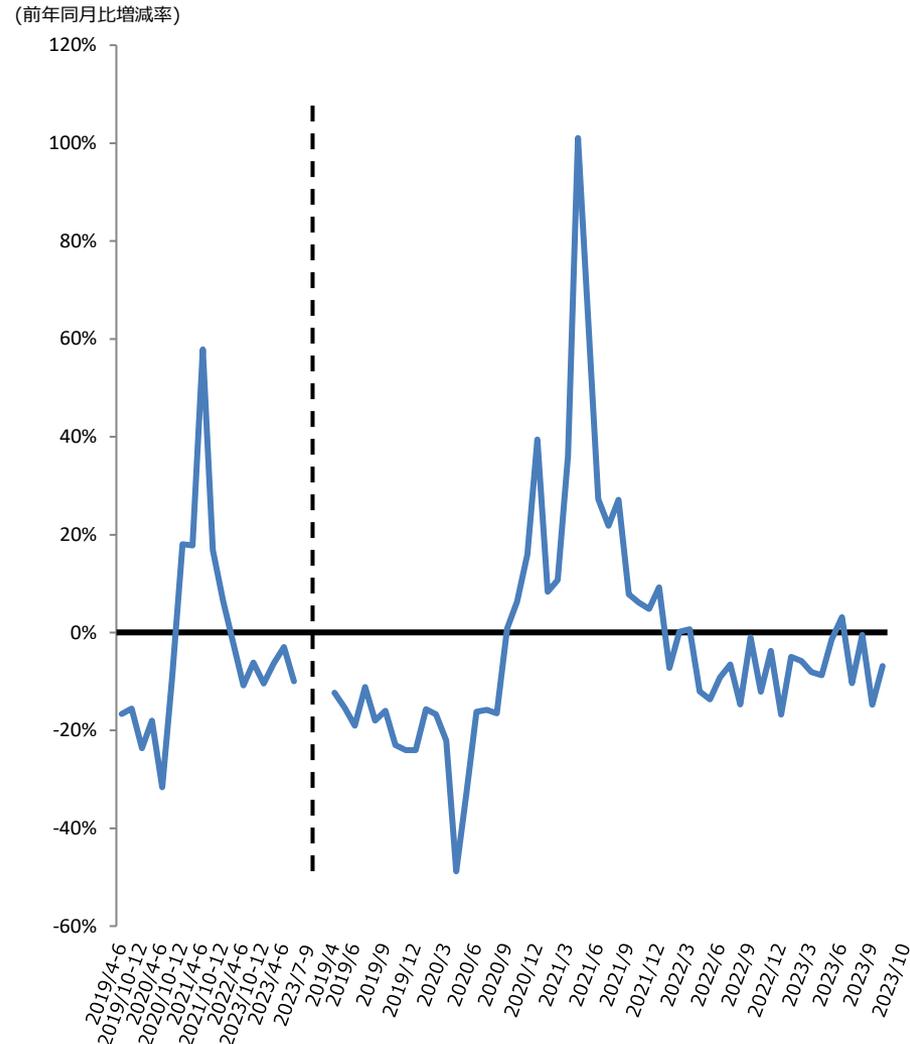
日本特殊鋼受注数量(特殊鋼)



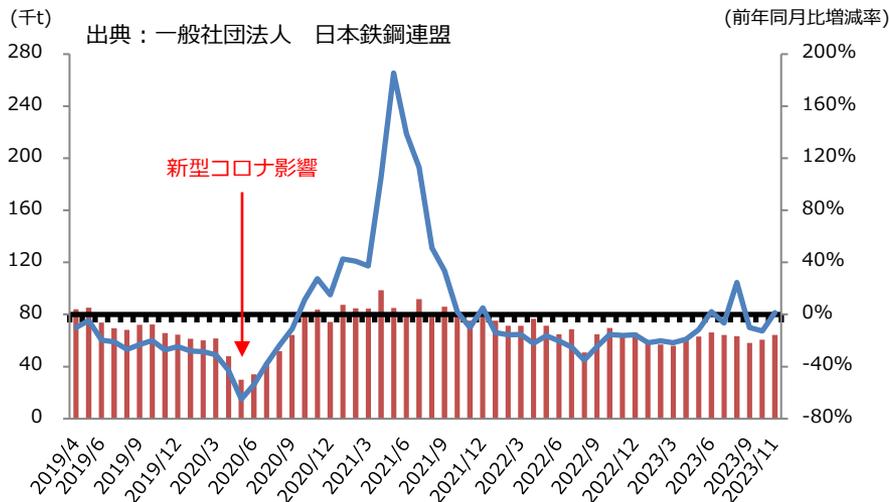
欧州デリバリー数量

棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

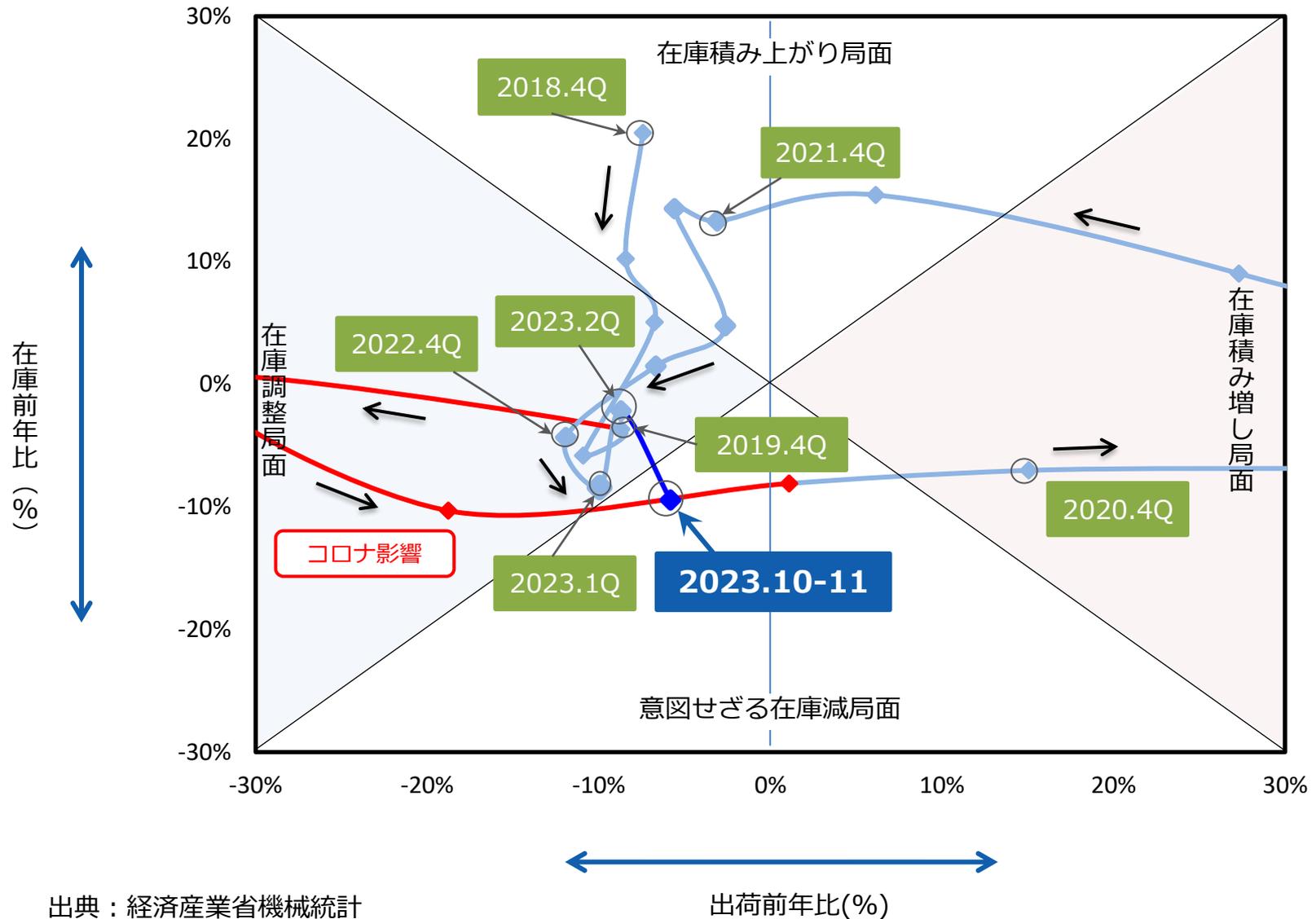
出典：欧州鉄鋼連盟



日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)



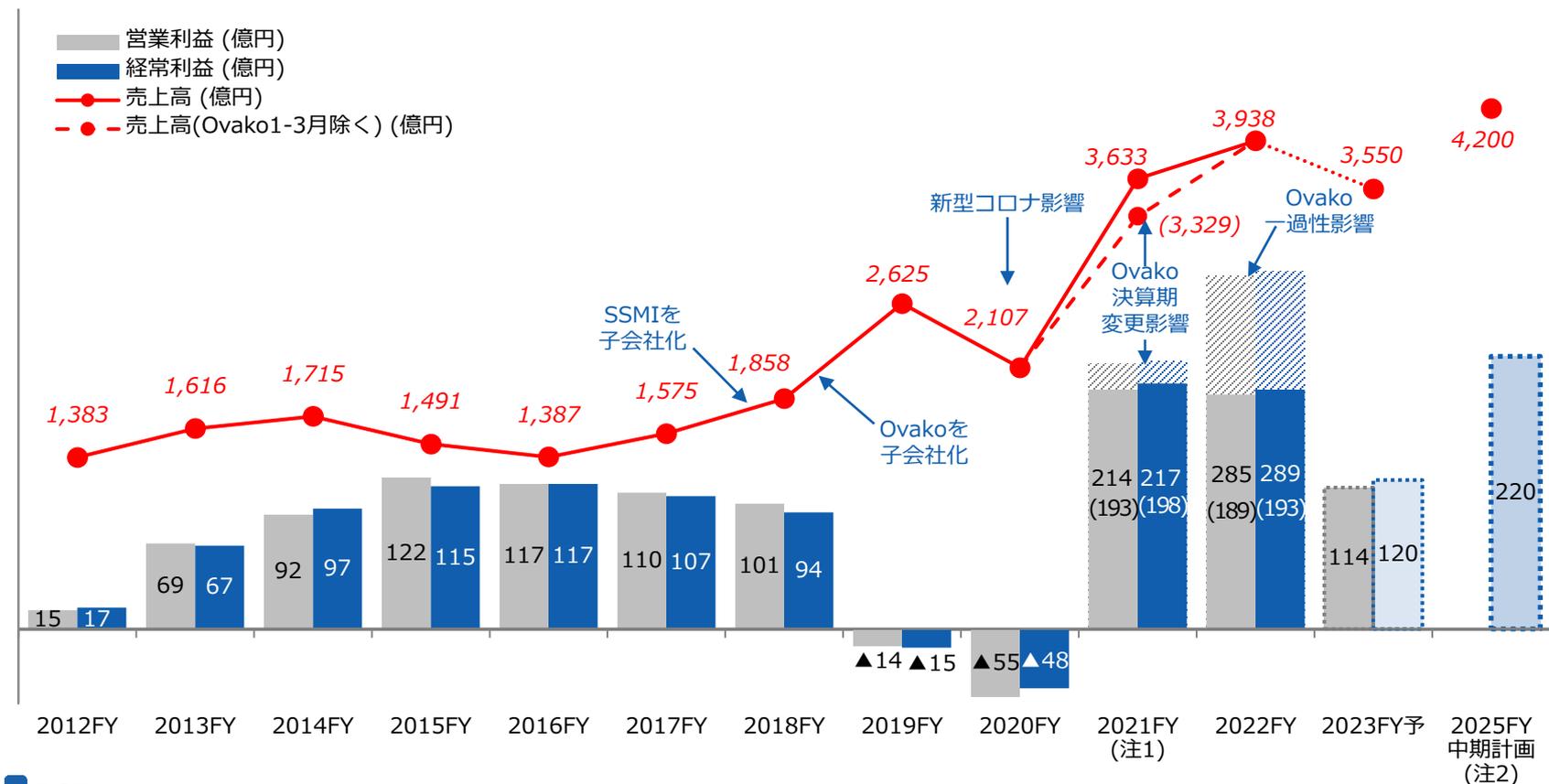
軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計

出荷前年比 (%)

業績推移(年度)



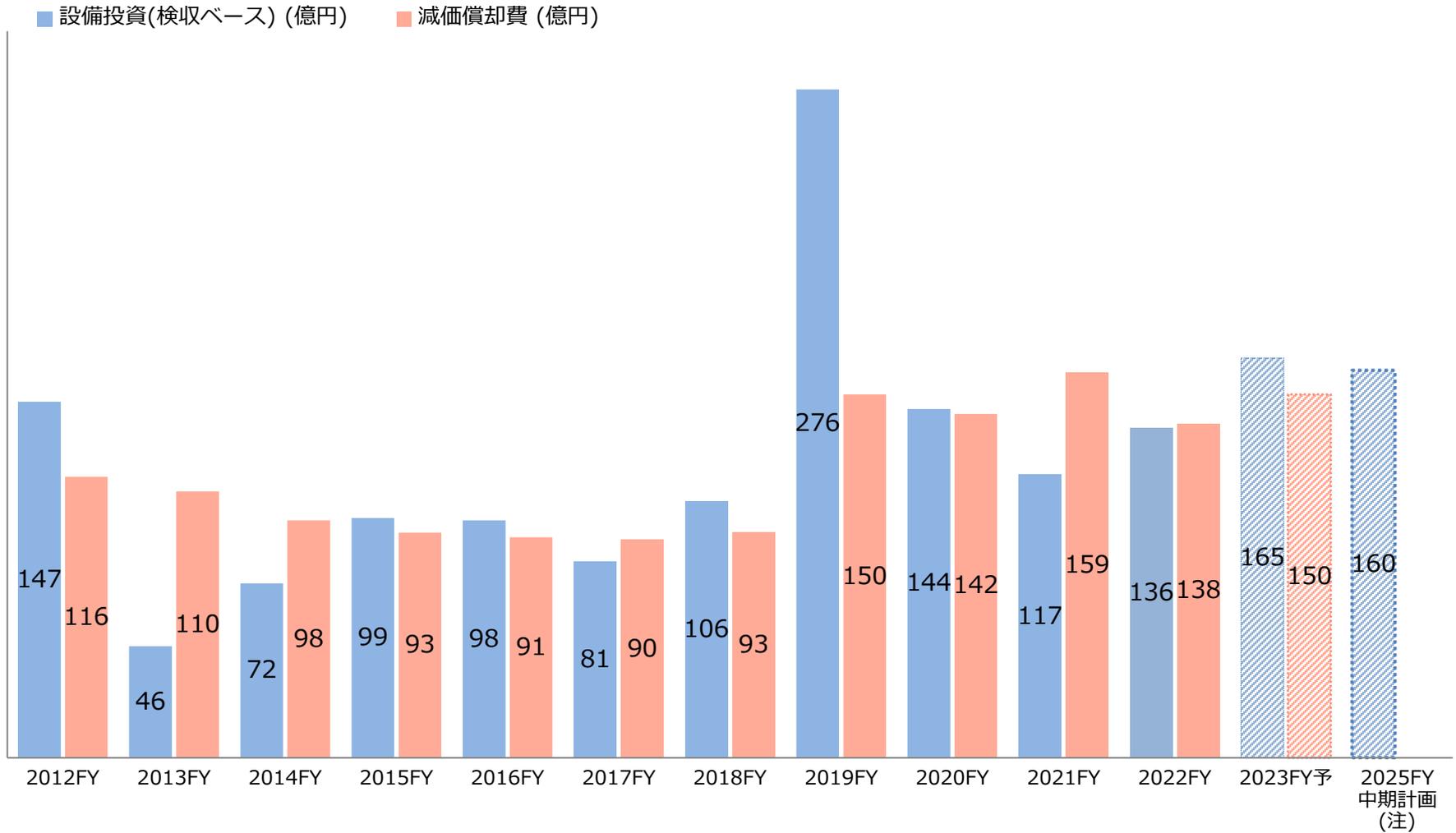
年度	ROE	ROE(のれん償却費除く)
2012FY	0.5%	0.5%
2013FY	4.1%	4.1%
2014FY	6.1%	6.1%
2015FY	6.6%	6.6%
2016FY	6.6%	6.6%
2017FY	5.6%	5.6%
2018FY	4.8%	4.8%
2019FY	-2.0%	0.3%
2020FY	-3.9%	-2.4%
2021FY (注1)	8.1%	9.9%
2022FY	10.1%	11.5%
2023FY予	3.9%	5.4%
2025FY 中期計画 (注2)	7%	8%

(注1)2021FYのOvakoおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2)2023年7月28日公表値

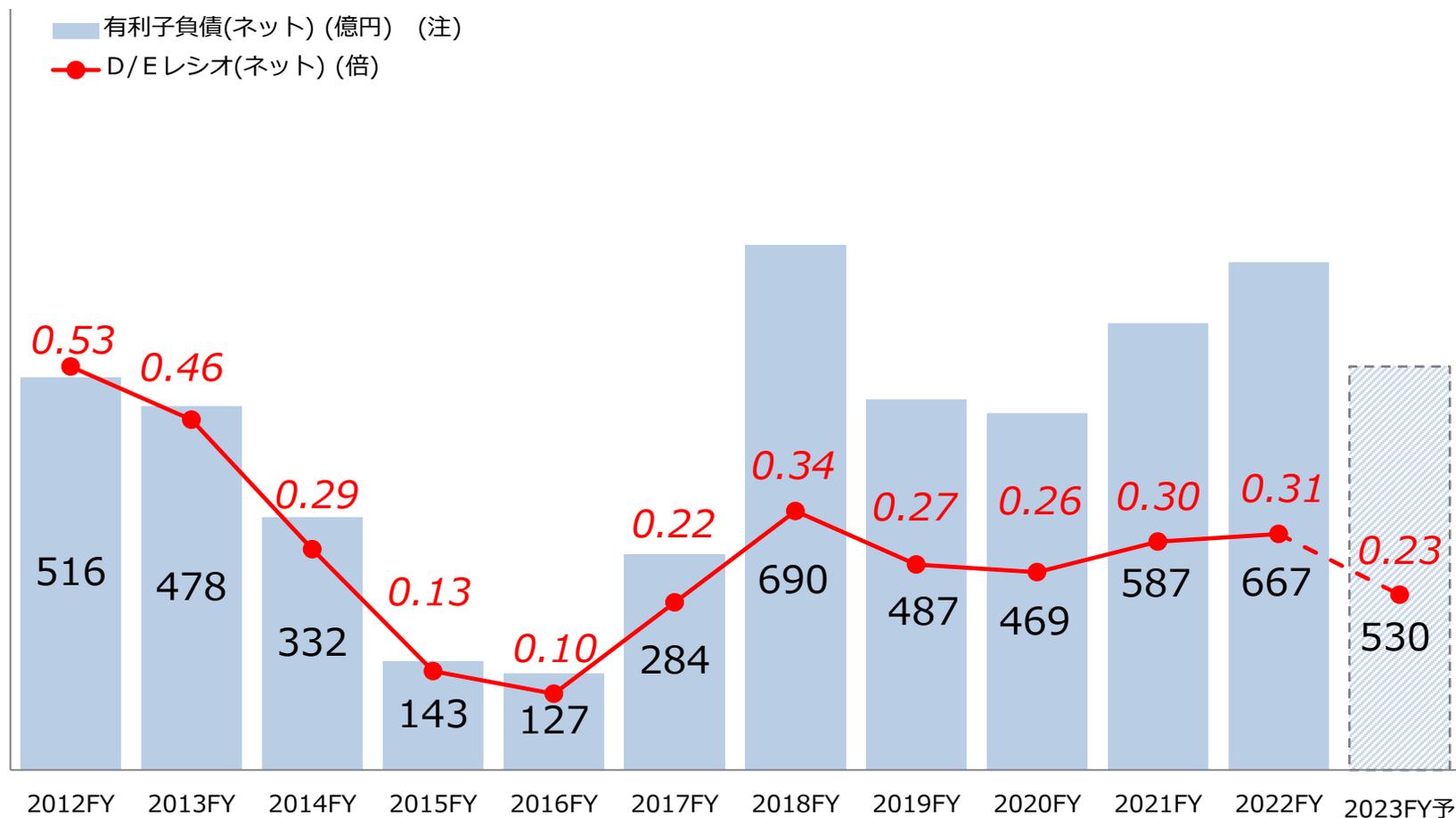
(注3)SSMIは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結

設備投資・減価償却費の推移



(注)2023年7月28日公表値

D/Eの推移



(参考)OvakoのD/Eレシオ(ネット) 1.75 0.83 0.38 0.25

(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

損益の詳細 (対2022FY/4-12月期)

(単位：億円、円/株)

	2023FY/4-12月期 (A)	2022FY/4-12月期 (B)	増減 (A)-(B)	増減率 (%)
売上高	2,690	2,944	-254	-8.6
内、当社単独	1,393	1,462	-69	-4.7
内、Ovako	1,069	1,267	-198	-15.7
内、SSMI	171	158	+13	+8.5
営業利益	88	204	-116	-56.8
内、当社単独	35	79	-45	-56.6
内、Ovako	67	139	-72	-51.9
内、SSMI	7	▲1	+8	-
内、のれん償却費	▲24	▲22	-2	-
経常利益	91	207	-116	-56.1
内、当社単独	76	95	-19	-19.6
内、Ovako	61	139	-78	-56.1
内、SSMI	5	▲4	+8	-
内、のれん償却費	▲24	▲22	-2	-
税後利益 (注1)	63	148	-84	-57.2
1株当たり税後利益	115.9	270.9	-155.0	-57.2
のれん償却費を除く営業利益	112	226	-114	-50.3
のれん償却費を除く経常利益	115	229	-114	-49.8
のれん償却費を除く税後利益	87	169	-82	-48.5
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	160.1	310.9	-150.8	-48.5
売上数量 (千t)	1,092	1,210	-119	-9.8
内、当社単独	629	681	-52	-7.6
内、Ovako	376	451	-75	-16.5
内、SSMI	86	78	+8	+10.2

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～9月の数値

損益の詳細 (業績予想 2024/2/2公表 対前年度)

(単位：億円、円/株)

	23FY上期実績 (A)	23FY下期予想 (B)	2023FY予想 (C)=(A)+(B)	2022FY (D)	増減 (C)-(D)	増減率 (%)
売上高	1,853	1,697	3,550	3,938	-388	-9.9
内、当社単独	962	798	1,760	1,932	-172	-8.9
内、Ovako	741	739	1,480	1,711	-231	-13.5
内、SSMI	112	118	230	216	+14	+6.4
営業利益	73	41	114	285	-171	-60.0
内、当社単独	27	15	42	87	-45	-51.5
内、Ovako	56	35	91	214	-123	-57.4
内、SSMI	5	5	10	2	+8	+480.1
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲29	-3	-
経常利益	78	42	120	289 ※	-169	-58.4
内、当社単独	69	16	85	102	-17	-16.7
内、Ovako	51	34	85	211	-126	-59.8
内、SSMI	3	4	7	▲2	+9	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲29	-3	-
税後利益 (注1)	52	33	85	207	-122	-59.0
1株当たり税後利益	96.1		156.0	380.7	-224.7	-59.0
のれん償却費を除く営業利益	89	57	146	314	-168	-53.5
のれん償却費を除く経常利益	94	58	152	318	-166	-52.2
のれん償却費を除く税後利益	68	49	117	237	-120	-50.6
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	125.3		214.7	434.4	-219.6	-50.6
売上数量 (千t)	739	710	1,450	1,607	-158	-9.8
内、当社単独	427	390	817	894	-77	-8.6
内、Ovako	256	262	517	608	-91	-15.0
内、SSMI	56	59	115	105	+10	+9.5

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

※ Ovakoの一過性影響を除くと193億円

損益の詳細 (業績予想 2024/2/2公表 対前回予想)

(単位：億円、円/株)

	2023FY			2023FY		増減 (C)-(D)
	上期実績	下期今回予想	通期今回予想	下期前回予想	通期前回予想	
	(A)	(B)	(C)=(A)+(B)	(D)	(C)-(D)	
売上高	1,853	1,697	3,550	1,947	3,800	-250
内、当社単独	962	798	1,760	908	1,870	-110
内、Ovako	741	739	1,480	859	1,600	-120
内、SSMI	112	118	230	138	250	-20
営業利益	73	41	114	127	200	-86
内、当社単独	27	15	42	62	89	-47
内、Ovako	56	35	91	62	118	-27
内、SSMI	5	5	10	7	12	-2
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲16	▲32	-
経常利益	78	42	120	122	200	-80
内、当社単独	69	16	85	64	133	-48
内、Ovako	51	34	85	59	110	-25
内、SSMI	3	4	7	4	7	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲16	▲32	-
税後利益 (注1)	52	33	85	88	140	-55
1株当たり税後利益	96.1		156.0		257.0	-100.9
のれん償却費を除く営業利益	89	57	146	143	232	-86
のれん償却費を除く経常利益	94	58	152	138	232	-80
のれん償却費を除く税後利益	68	49	117	104	172	-55
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	125.3		214.7		315.7	-100.9
売上数量 (千t)	739	710	1,450	796	1,535	-85
内、当社単独	427	390	817	426	853	-36
内、Ovako	256	262	517	304	560	-43
内、SSMI	56	59	115	66	122	-7

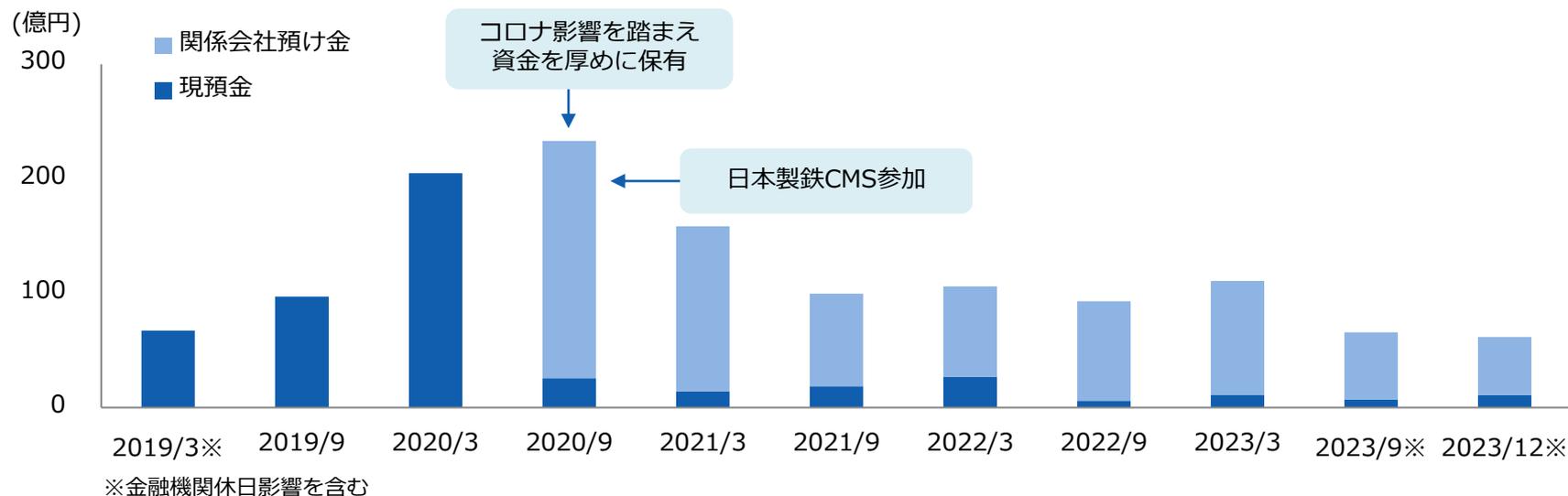
(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

関係会社預け金

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み。
(資金のセーフティネットとして機能)
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

関係会社預け金を含む現預金等の推移(単独)



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>